

令和7年度

国営造成水利施設ストックマネジメント推進事業

安積疏水地区深田調整池他付帯設備耐震性能照査業務

特 別 仕 様 書

東北農政局阿武隈土地改良調査管理事務所

第1章 総 則

(適用範囲)

第1-1条 令和7年度国営造成水利施設ストックマネジメント推進事業安積疏水地区深田調整池他付帯設備耐震性能照査業務の施行にあたっては、農林水産省農村振興局制定「設計業務共通仕様書」（以下「共通仕様書」という。）によるほか、同仕様書に対する特記及び追加事項は、この特別仕様書によるものとする。

(目 的)

第1-2条 本業務は、国営かんがい排水事業安積疏水地区で造成された深田調整池付帯設備である取水設備等について、耐震性能照査を行うものである。併せて名取川地区貞山堀防潮水門建屋、請戸川地区大柿ダム管理所について耐震性能照査を行うものである。

(場 所)

第1-3条 本業務において対象とする施設の場所は福島県郡山市三穂田町山口地内他で、別添1位置図①、別添2位置図②、別添3位置図③のとおりである。

(土地への立入り等)

第1-4条 作業実施のための土地の立入り等は、共通仕様書第1-16条によるが、発注者の許可無く土地の踏み荒らし、立木伐採等行った場合に対する補償は、受注者の責任において処理するものとする。

(一般事項)

第1-5条 業務請負契約書及び共通仕様書に示す以外の一般事項は、次のとおりである。

- (1) 作業実施の順序、方法等は監督職員と密接に連絡を取り、作業の円滑な進捗を図るものとする。
- (2) 受注者は常に業務内容を把握し、業務期間中であっても監督職員に資料の提出を求められたときには、速やかにこれに応じるものとする。

(管理技術者)

第1-6条

- (1) 管理技術者は、共通仕様書第1-6条第3項によるものとし、農業土木技術管理士以外の業務に係る該当する技術部門・選択科目は次のとおりである。

資格	技術部門	選択科目
技術士	総合技術監理	農業－農業土木 農業－農業農村工学
	農業	農業土木 農業農村工学
博士	農学	
シビルコンサルティングマネージャー	農業土木	

(照査技術者)

第1-7条

- (1) 照査技術者は、共通仕様書第1-7条第2項によるものとし、農業土木技術管理士以外の資格に係る該当する技術部門・選択科目は次のとおりである。

資格	技術部門	選択科目
技術士	総合技術監理	農業-農業土木 農業-農業農村工学
	農業	農業土木 農業農村工学
博士	農学	
シビルコンサルティングマネージャー	農業土木	

- (2) 共通仕様書第1-7条第4項でいう、監督職員が指示する業務の節目とは、次のとおりとする。

- ① 業務計画書作成時
- ② 耐震性能照査作業時
- ③ 成果品とりまとめ時
- ④ その他、照査計画作成時において監督職員が指示した場合

- (3) 当該業務の中で照査技術者は、管理技術者を兼務することはできない。

(担当技術者)

第1-8条 担当技術者は、共通仕様書第1-8条によるものとする。

(配置技術者の確認)

第1-9条 共通仕様書第1-11条における業務組織計画の作成及び共通仕様書第1-12条に基づく技術者情報の登録にあつては、次によるものとする。

- (1) 受注者は、業務計画書の業務組織計画に配置技術者の所属・役職及び担当する分担業務を明確に記載するものとする。なお、変更業務計画において、業務組織計画を変更する際も同様とする。
- (2) 農業農村整備事業測量調査設計業務実績情報サービスへの技術者情報の登録は、業務計画書の業務組織計画において位置付けられた技術者を登録対象とする。

(保険加入)

第1-10条 受注者は共通仕様書第1-37条に示されている保険に加入している旨を業務計画書に明示しなければならない。また、監督職員からの請求があつた場合は、保険加入を証明する書類を提示しなければならない。

第2章 作業条件

(適用する図書)

第2-1条 本業務の基本的事項に関しては、次に示す図書によるものとする。他の図書を適用する場合は、監督職員の承諾を得るものとする。

番号	名称	発行所	制定(改訂)年月
1	土地改良事業計画設計基準・設計「ダム」	(公社) 農業農村工学会	平成15年 4月
2	土地改良事業設計指針「耐震設計」	(公社) 農業農村工学会	平成27年 5月
3	農業用ダム付帯設備耐震性能照査マニュアル	農林水産省農村振興局	令和 4年 2月
4	官庁施設の総合耐震・対津波計画基準及び同解説 令和 3年度版	(一社) 公共建築協会	令和 3年 2月
5	配電盤・制御盤の耐震設計指針(技術資料JEM-T R144)	(一社) 日本電気工業会	平成29年 3月

(作業条件)

第 2-2 条 本業務の実施にあたっては、以下の事項に留意して作業を進めるものとする。

- (1) 作業の実施にあたっては、事前に作業方法及び具体的な工程計画を立案し、監督職員及び監督職員が指示する者と十分打合せを行い手戻りのないよう留意しなければならない。
- (2) 本業務において生じた第三者との紛争で受注者の責に帰する事項は、受注者の責任において処理しなければならない。
- (3) 現地調査を行う時期、日程等の詳細については監督職員と打合せにより決定するものとする。

(対象施設)

第 2-3 条 本業務の対象となる施設の諸元は、以下のとおりである。

なお、施設の詳細は別添 4~22 に示す図面のとおりである。

施設名称	区分	名称	諸元
深田調整池	堤体諸元	利用目的	かんがい
		ダム形式	中心遮水ゾーン型フィルダム
		基礎地質	新第三紀中新世白石層凝灰質砂岩
		堤高	55.5m
		堤長	339.6m
		天端標高	EL. 341.6m
		堤体積	1,180千m ³
		上流勾配	1:2.5~3.0
		下流勾配	1:2.2~3.5
	基礎処理	カーテングラウト有無	有り
		その他基礎処理有無	有り
	貯水池	有効貯水量	8,040 千 m ³
		総貯水量	8,690 千 m ³
		常時満水位	EL. 338.00m
		設計洪水位	EL. 338.60m
		最低水位	EL. 311.00m
		満水面積	0.50 km ²
流域面積	直接流域	1.25 km ²	

施設名称	区分	名称	諸元
	取水設備	形式：独立式取水塔	取水塔：鉄骨トラス構造平面八角形 フローティングタイプ 管理棟：鋼製四角トラス構造 ジェットフローゲート φ1200 φ700 スルースバルブ φ1200 φ850
	余水吐設備	形式：グローリーホール式	豎坑 円形直立 D=3.00m H=22.43m 水槽 標準馬蹄型 2r=4.20m 連絡橋 B=1.00m L=9.90m
	監査廊	監査廊の有無	無し
貞山堀防潮水門	建屋	巻上機室建屋	パネル構造 平屋 延床面積 32m ² /棟
		管理棟建屋	鉄筋コンクリート造 平屋 延床面積 60m ²
大柿ダム	建屋	大柿ダム管理所	鉄筋コンクリート造 二階建 延床面積 390m ²

(参考図書)

第2-4条 本作業の参考にする図書は、共通仕様書第2-1条によるほか次表によるものとする。

番号	名称	発行所	制定(改訂)年月
1	大規模地震に対するダム耐震性能照査指針(案)・同解説	国土交通省河川局	平成17年3月
2	電気設備計画設計技術指針(高低圧編)	農林水産省農村振興局	令和元年9月
3	河川構造物の耐震性能照査指針・解説-IV.水門・樋門及び堰編-	国土交通省水管理・国土保全局治水課	令和2年2月
4	ダム・堰施設技術基準(案)	(一社)ダム・堰施設技術協会	平成28年3月

(貸与資料等)

第2-5条 貸与資料は、次のとおりである。

分類	貸与資料	数量
関係図書	安積疏水事業誌	1式
報告書	平成25年度 国営造成水利施設保全対策指導事業 安積疏水地区深田調整池耐震性能照査業務	1式
	平成26年度 国営造成水利施設保全対策指導事業 安積疏水地区深田調整池耐震性能照査業務	1式
	平成27年度 国営造成水利施設保全対策指導事業 安積疏水地区深田調整池安全性評価業務	1式
	平成28年度 国営造成水利施設保全対策指導事業 安積疏水地区深田調整池安全性評価業務	1式
	平成29年度 国営造成水利施設保全対策指導事業 安積疏水地区深田調整池安全性評価業務	1式
	平成31年度 国営造成水利施設ストックマネジメント推進 事業 安積疏水地区深田調整池健全性確認補足検討業務	1式
	平成23年度 農業基盤復旧復興整備計画策定事業 貞山堀防潮水門施設計画策定業務	1式
委員会	平成25年度 深田調整池安全性評価委員会報告書	1式
	平成26年度 深田調整池安全性評価委員会報告書	1式
	平成27年度 深田調整池安全性評価委員会報告書	1式
	平成28年度 深田調整池安全性評価委員会報告書	1式
	平成29年度 深田調整池安全性評価委員会報告書	1式
	令和2年度 深田調整池安全性評価委員会報告会報告書	1式
その他	その他監督職員が必要と認める図書	1式

(参考図書及び貸与資料の取扱い)

第2-6条 第2-4条、第2-5条に示す参考図書及び貸与資料の取扱いは次のとおりとする。

- (1) 参考図書及び貸与資料の記載事項に相互に矛盾がある場合、又は解釈に疑義が生じた場合は、監督職員と協議するものとする。
- (2) 貸与資料は、原則として初回打合せ時に一括貸与するものとし、監督職員の請求があった場合のほか完了検査時に一括返納しなければならない。

第3章 作業内容

(作業項目及び数量)

第3-1条

- (1) 本業務における作業項目及び数量は次の作業項目表のとおりである。
なお、詳細は別紙1【業務対象施設一覧表】及び別紙2【作業項目内訳表】に示すものとする。

(業務の成果品質確保対策)

第3-3条 契約後業務着手時並びに最終打合せ時において、受発注者間の設計方針、条件等の確認の場として、次の会議を設置するので、管理技術者等の受注者代表は、次の事項並びに「業務の成果品質確保対策」(農林水産省WEBサイト)を十分に理解のうえ、対応するものとする。

(1) 業務確認会議

業務着手時に、管理技術者・担当技術者並びに事務所長、次長、主任監督員(主催)、監督員が、作業方針、条件等の確認を一堂に会して実施することにより、業務の円滑化と成果物の品質確保を推進する。

ア 業務確認会議とは、発注者及び受注者が集まり、次の事項について確認を行う会議を開催するものである。なお、確認事項については変更する場合がある。

- a) 作業条件・前提条件
- b) 業務計画の妥当性
- c) スケジュール
- d) 設計変更内容
- e) その他

イ 会議の開催については、監督職員が指示するものとする。なお、開催時期の変更、開催回数の追加が必要な場合は、監督職員と協議するものとし、規定の打合せ時以外に開催する場合の費用については、必要に応じ設計変更で計上する。

(2) 合同現地踏査

管理技術者・担当技術者並びに事務所長、次長、主任監督員(主催)、監督員が、必要に応じて合同で現地踏査を行うことにより、設計条件や施工の留意点、関連事業の情報、設計方針の明確化等について情報共有を図る。

(3) 照査の確実な実施

業務の最終打合せ時において、成果物のうち照査報告書については、照査を実施した照査技術者自身による報告を原則とする。また、最終打合せ時以外であっても、必要に応じて、照査技術者自身からの報告書を実施できるものとする。

(4) 業務確認会議において確認した事項については、業務打合せ記録簿に記録し、相互に確認するものとする。

(業務写真における黒板情報の電子化)

第3-4条 黒板情報の電子化は、被写体画像の撮影と同時に業務写真における黒板の記載情報の電子的記入を行うことにより、現場撮影の省力化及び写真整理の効率化を図るものである。

受注者は、業務契約後に監督職員の承諾を得たうえで黒板情報の電子化を行うことができる。黒板情報の電子化を行う場合、受注者は、以下の(1)から(4)によりこれを実施するものとする。

(1) 使用する機器・ソフトウェア

受注者は、黒板情報の電子化に必要な機器・ソフトウェア等(以下、「機器等」という。)は、電子的記入ができるもので、かつ「電子政府における調達のために参照すべき暗号のリスト(CRYPTREC暗号リスト)」に記載する基準を用いた信性憑確認機能(改ざん検知機能)を有するものを使用するものとする。

・「電子政府における調達のために参照すべき暗号のリスト(CRYPTREC 暗号リスト)」は、

<https://www.cryptrec.go.jp/list.html> を参照。

(2) 機器等の導入

ア 黒板情報の電子化に必要な機器等は、受注者が準備するものとする。

イ 受注者は、黒板情報の電子化に必要な機器等を選定し、監督職員の承諾を得なければならない。

(3) 黒板情報の電子的記入に関する取扱い

ア 受注者は、(1)の機器等を用いて業務写真を撮影する場合は、被写体と黒板情報を電子画像として同時に記録してもよいこととする。

イ 本業務の業務写真の取扱いは、「電子化写真データの作成要領(案)」によるものとする。

なお、上記アに示す黒板情報の電子的記入については、「電子化写真データの作成要領(案)6写真編集等」に示す「写真編集」には該当しないものとする。

ウ 黒板情報の電子化を適用する場合は、従来型の黒板を写し込んだ写真を撮影する必要はない。

(4) 写真の納品

受注者は、(3)に示す黒板情報の電子化を行った写真を、業務完了時に発注者へ納品するものとする。なお、受注者は納品時にチェックシステム(信憑性チェックツール)又はチェックシステム(信憑性チェックツール)を搭載した写真管理ソフトウェアを用いて、黒板情報を電子化した写真の信憑性確認を行い、その結果を監督職員へ提出するものとする。

・チェックシステム(信憑性チェックツール)又はチェックシステム(信憑性チェックツール)を搭載した写真管理ソフトウェアは、

https://dcpadv.jcomsia.org/photofinder/pac_auth.php を参照。

(5) 費用

機器等の導入に要する費用は、従来の黒板に代わるものであり、間接調査費に含まれる。

第4章 打合せ

(打合せ)

第4-1条 共通仕様書第1-10条による打合せについては、主として次の段階で行うものとする。

また、初回及び最終回打合せには管理技術者が出席するものとする。

なお、打合せ場所はすべて阿武隈土地改良調査管理事務所とする。

初 回 作業着手の段階

第2回 中間打合せ(耐震性能照査手法の整理段階)

第3回 中間打合せ(耐震性能照査とりまとめ段階)

最終回 報告書原稿作成段階

また、業務を適正かつ円滑に実施するために、受注者の業務担当は、業務打合せ記録簿を作成し、上記の打合せの都度内容について、監督職員と相互に確認するものとする。

第5章 成果物

(成果物)

第5-1条 成果物を共通仕様書第1-17条に基づき作成し、次のものを提出しなければならない。

(1) 成果物の電子媒体 (CD-R 等) 正副2部

このほか、この成果物に含まれる個人情報等の不開示情報について、その該当箇所を黒塗り等にする措置を行い、電子媒体 (CD-R 等) により別途1部提出するものとする。

(2) 成果物の出力 1部 (電子媒体の出力、市販のファイル綴じで可)

なお、前記で黒塗り等の措置を行った成果物の出力は不要とする。

(成果物の提出先)

第5-2条 成果物の提出先は、次のとおりとする。

福島県福島市笹谷字稲場 38-7

東北農政局阿武隈土地改良調査管理事務所

第6章 契約変更

(契約変更)

第6-1条 業務請負契約書第17条から第20条に規定する発注者と受注者による協議事項は、次のとおりとする。

(1) 第2-2条に示す「作業条件」に変更が生じた場合。

(2) 第2-3条に示す「対象施設」に変更が生じた場合。

(3) 第3-1条に示す「作業項目及び数量」に変更が生じた場合。

(4) 第4-1条に示す「打合せ」に変更が生じた場合。

(5) 第5-1条に示す「成果物」に変更が生じた場合。

(6) 履行期間の変更が生じた場合。

(7) 関係機関等対外的協議等により業務計画等に変更が生じた場合。

(8) 現地調査の結果により、調査項目の変更又は追加調査が必要となった場合

(9) 調査対象施設等の変更追加が生じた場合。

(10) 歩掛調査の追加が生じた場合。

(11) その他

第7章 定めなき事項

(定めなき事項)

第7-1条 この特別仕様書に定めなき事項又はこの業務の実施に当たり疑義が生じた場合は、必要に応じて監督職員と協議するものとする。

別紙1 【業務対象施設一覧表】 深田調整池

施設区分	構成要素（構造※ ¹ ）	耐震性能照査		備考
		レベル1 ※ ²	レベル2	
取水設備	取水塔（S） 管理塔（S）	○	◎	
	土木構造物（RC）	○	◎	
	ゲート設備（S）	○	◎※ ⁴	
	開閉装置（固定部）	○	◎※ ⁴	
	電気設備 （機側操作盤（固定部））	○※ ⁴	◎※ ⁴	
	操作室	○※ ⁵		
余水吐設備	土木構造部（RC）	○	◎	
	ゲート設備（S）	○	◎※ ⁴	
管理棟	管理事務所 予備発電庫	○※ ⁵		
操作管理設備	電気設備、通信設備、警 報設備等	○※ ⁶	◎※ ⁴	
周辺地山	法面・斜面※ ⁷	○	△	
<p>【備考】◎：動的解析、○：静的解析、△：特別な課題がなければ個別の照査は実施しない</p> <p>※¹ 構成要素の構造型式、S:鋼構造、RC:鉄筋コンクリート構造</p> <p>※² 造成時の設計資料・完成図書により、レベル1地震動相当の耐震設計実施状況を確認</p> <p>※³ 堤体の耐震性能照査結果又は地山の安全性確認結果から耐震性能を判断</p> <p>※⁴ 動的解析の結果を活用し、静的に照査</p> <p>※⁵ 建築法令・基準に基づく照査</p> <p>※⁶ 電気設備関連法令・基準に基づく照査</p> <p>※⁷ 不安定化した場合に各対象施設（取水設備、放流設備、洪水吐水路、管理棟）の耐震性能、あるいは水理機能に影響を及ぼす可能性がある場合</p>				

注) 備考の注釈に関しては、耐震性能照査マニュアルに基づき記載しており、本業務の「2-1. 耐震性能照査手法の整理」において、対象構造物の選定（スクリーニング）及び耐震性能照査方法を決定するものとする。

別紙2 【作業項目内訳表】

作業項目	作業内容	作業実施
【1. 深田調整池】 1. 業務準備		
1-1. 現地調査	本業務実施に必要な現地調査を行う。	○
1-2. 資料の検討	ダム付帯設備の特性把握に必要な基本情報に関する資料を収集整理し、作業計画を確立する。	○
2. 付帯設備耐震性能照査		
2-1. 耐震性能照査手法の整理	貸与資料等から対象施設（別紙1）について、各構造物の配置・構造等を造成時の設計資料・完成図書により把握し、想定される地震時の損傷形態を基に、各設備の耐震性能及び耐震照査手法を選定、整理する。	○
2-2. 耐震性能の確認 （レベル1地震動）	対象施設（別紙1）について、造成時の設計資料・完成図書によりレベル1地震動相当の耐震設計の実施状況を確認し、整理する。	○
2-3. 耐震性能照査 （レベル2地震動） 取水設備	<p>上記2-1. で選定した手法に基づき、以下の設備について耐震性能照査を行う。</p> <p>【対象施設】 取水設備</p> <p>【照査手法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・取水塔、管理塔 土木構造物： <ul style="list-style-type: none"> 取水塔、管理棟については入力地震動及び材料物性値を設定した上で、3次元フレームモデルを用いた線形動的解析を実施する。フレームモデルの応答力が2倍を超えた場合は、別途協議する。 また、土木構造物（基礎コンクリート）は、取水塔の動的解析結果に基づき、支圧応力を照査するとともに、転倒・滑動に対する照査を行う。 ・ゲート設備：扉体の構造についてレベル2相当の静的地震動を作用させた場合の応力照査（造成時構造計算書を基に検証） ・開閉装置、電気設備、機側操作盤： <ul style="list-style-type: none"> 固定部（アンカーボルト）の照査 ・操作室：建築基準法令・基準に基づく照査 	○
2-4. 耐震性能照査 （レベル2地震動） 余水吐設備	<p>上記2-1. で選定した手法に基づき、以下の設備について耐震性能照査を行う。</p> <p>【対象施設】 余水吐設備</p> <p>【照査手法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・余水吐 土木構造物： <ul style="list-style-type: none"> 余水吐について鉄筋コンクリート部材の応力照査及び転倒・滑動に対する照査を行う。 ・ゲート設備：扉体の構造についてレベル2相当の静的地震動を作用させた場合の応力照査（造成時構造計算書を基に検証） 	○

【作業項目内訳表】

作業項目	作業内容	作業実施
2-5. 耐震性能照査 (レベル2地震動) 管理棟、操作管理設備	上記2-1. で選定した手法に基づき、以下の設備について耐震性能照査を行う。 【対象施設】 管理事務所、予備発電庫、電気設備、機側操作盤 非常用発電設備 【照査手法】 ・管理事務所、予備発電庫： 建築基準法令・基準に基づく照査 ・電気設備、機側操作盤、非常用発電設備： 固定部（アンカーボルト）の照査	○
3. 点検とりまとめ	各作業項目の成果物の点検、取りまとめ及び報告書の作成を行う。	○

【作業項目内訳表】

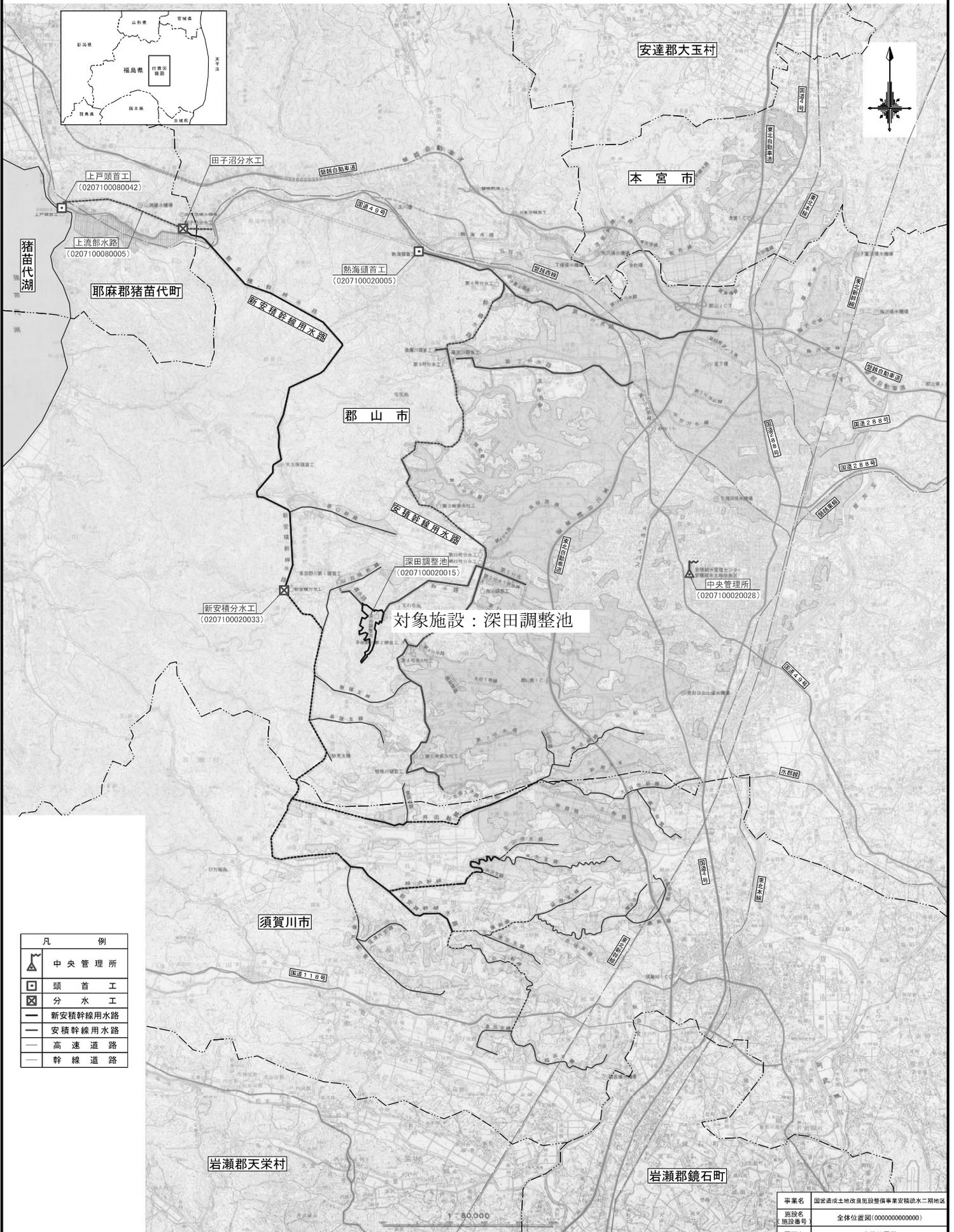
作業項目	作業内容	作業実施
【2. 貞山堀防潮水門 巻上機室建屋、管理棟建屋】 1. 耐震性能照査		
1-1. 現地調査	本業務実施に必要な現地調査を行う。	○
1-2. 資料の収集・検討	設計諸元、図面等構造条件に関する資料を収集し、概要を把握し検討した上で耐震照査作業計画を樹立する。 巻上機室建屋、管理棟建屋 各1棟	○
1-3. 耐震性能照査	建築基準法令・基準に基づく耐震性能照査を行う。 耐震安全性の分類はⅡ類とする。	○
1-4. 点検とりまとめ	各作業項目の成果物の点検、取りまとめ及び報告書の作成を行う。	○

【作業項目内訳表】

作業項目	作業内容	作業実施
【3. 大柿ダム管理所】 1. 耐震性能照査		
1-1. 現地調査	本業務実施に必要な現地調査を行う。	○
1-2. 資料の収集・検討	設計諸元、図面等構造条件に関する資料を収集し、概要を把握し検討した上で耐震照査作業計画を樹立する。 大柿ダム管理所 1棟	○
1-3. 耐震性能照査	建築基準法令・基準に基づく耐震性能照査を行う。 耐震安全性の分類はⅡ類とする。	○
1-4. 点検とりまとめ	各作業項目の成果物の点検、取りまとめ及び報告書の作成を行う。	○

作業項目	作業内容	作業実施
【4. 照査】 1. 照査	照査計画に基づき、業務の節目毎に照査を実施し、照査報告書作成を行う。	○

位置図①



対象施設：深田調整池

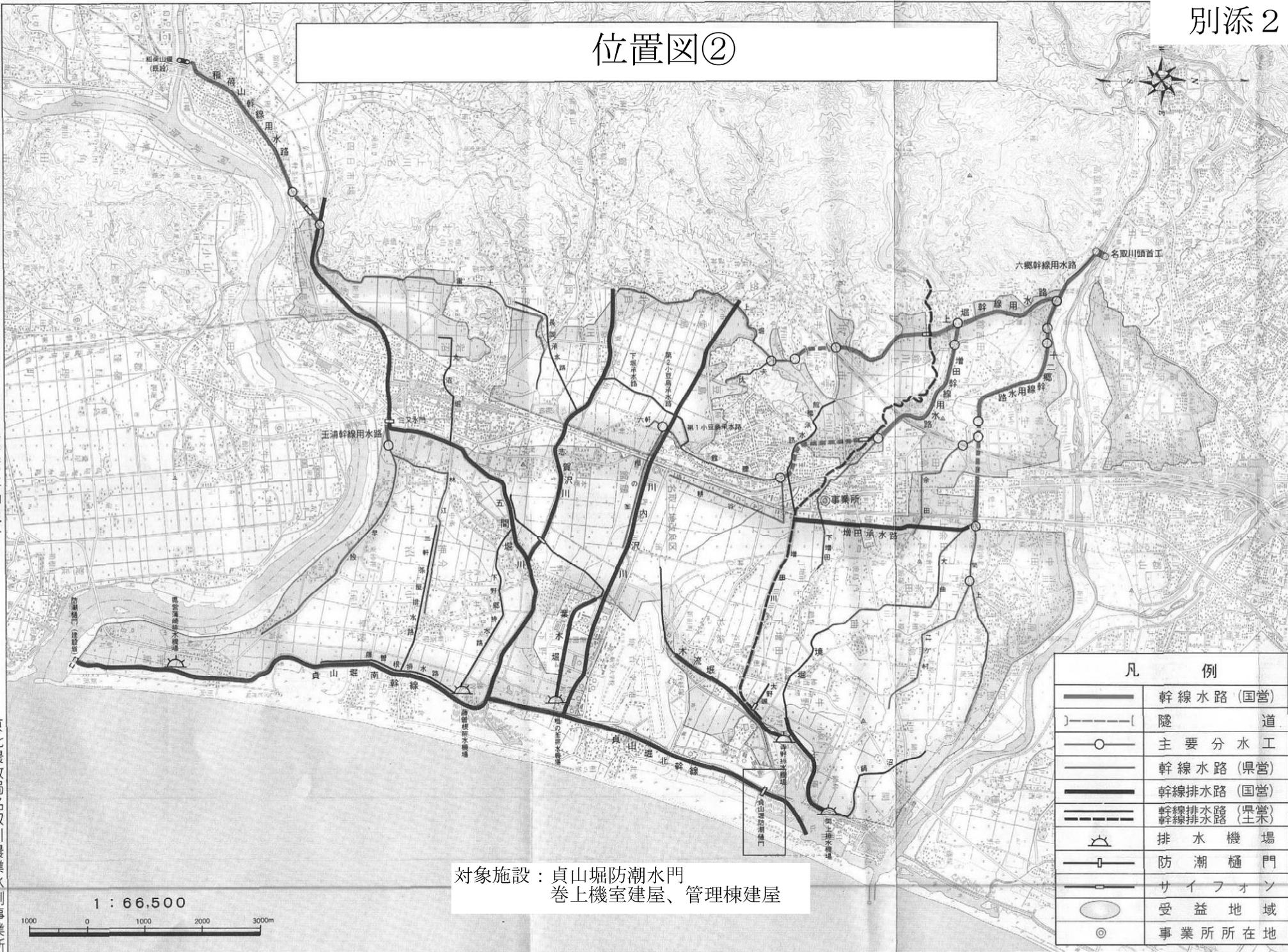
凡 例	
	中央管理所
	頭首工
	分水工
	新安積幹線用水路
	安積幹線用水路
	高速道路
	幹線道路

事業名	国家造成土地改良施設整備事業安積決水二期地区
施設名 (施設番号)	全体位置図(000000000000)
図面名	全体位置図
作成年月日	平成31年 3月20日
縮尺	S=1:50000 図面番号 1-1
作成者	東北農政局阿武隈土地改良調査管理事務所 安積決水特別協議室

位置図②

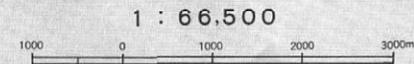
建設省国土地理院承認済
昭六〇、東農第三四五号

東北農政局名取川農業水利事業所



凡 例	
	幹線水路 (国営)
	隧 道
	主要分水工
	幹線水路 (県営)
	幹線排水路 (国営)
	幹線排水路 (県営)
	幹線排水路 (土木)
	排水機場
	防潮樋門
	サイフォン
	受益地域
	事業所所在地

対象施設：貞山堀防潮水門
巻上機室建屋、管理棟建屋



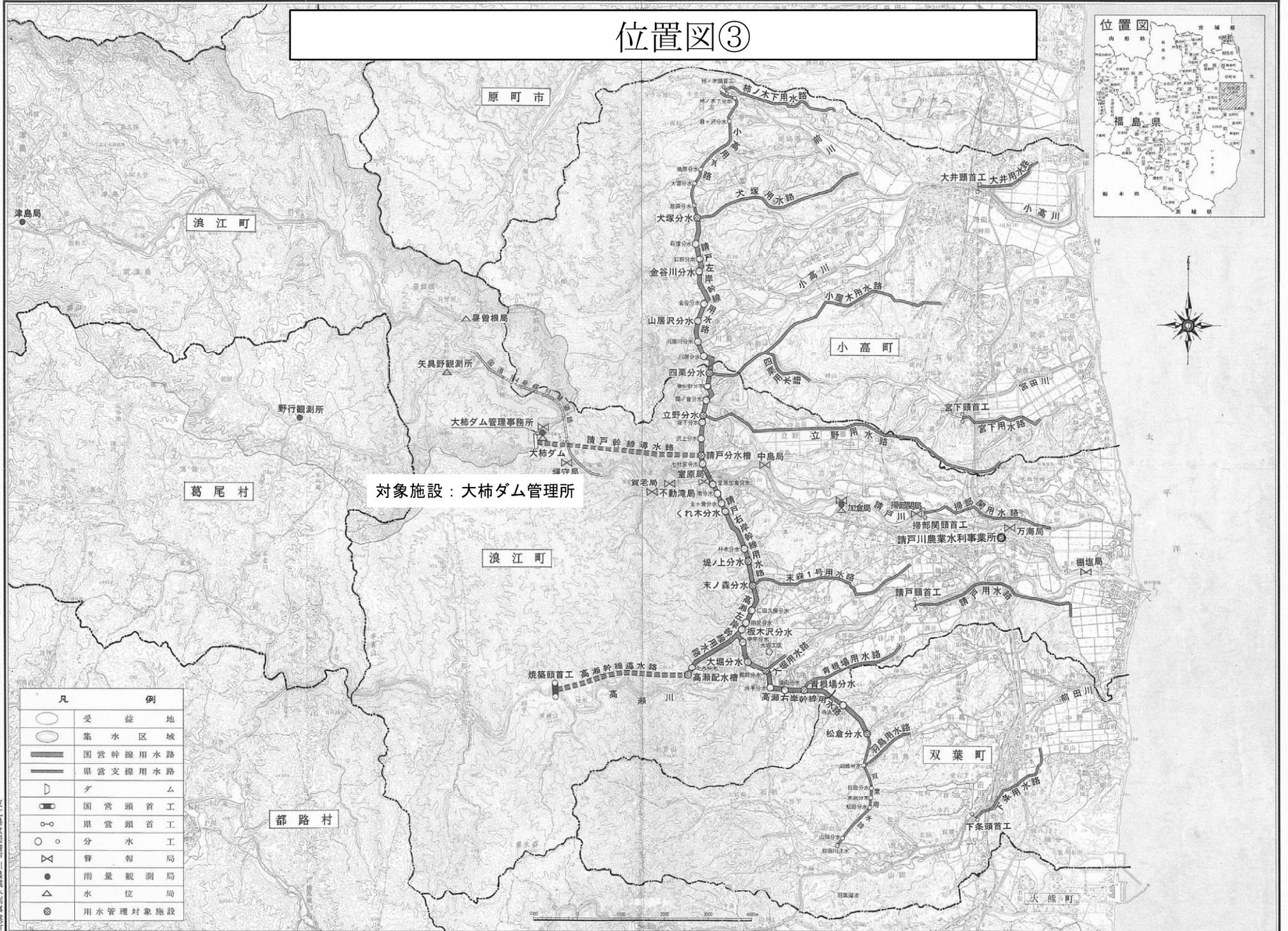
昭和60年12月

位置図③



対象施設：大柿ダム管理所

凡	例
	受益地
	集水区城
	国営幹線用水路
	果営支線用水路
	ダム
	国営頭首工
	果営頭首工
	分水工
	警報局
	雨量観測局
	水位局
	用水管理対象施設





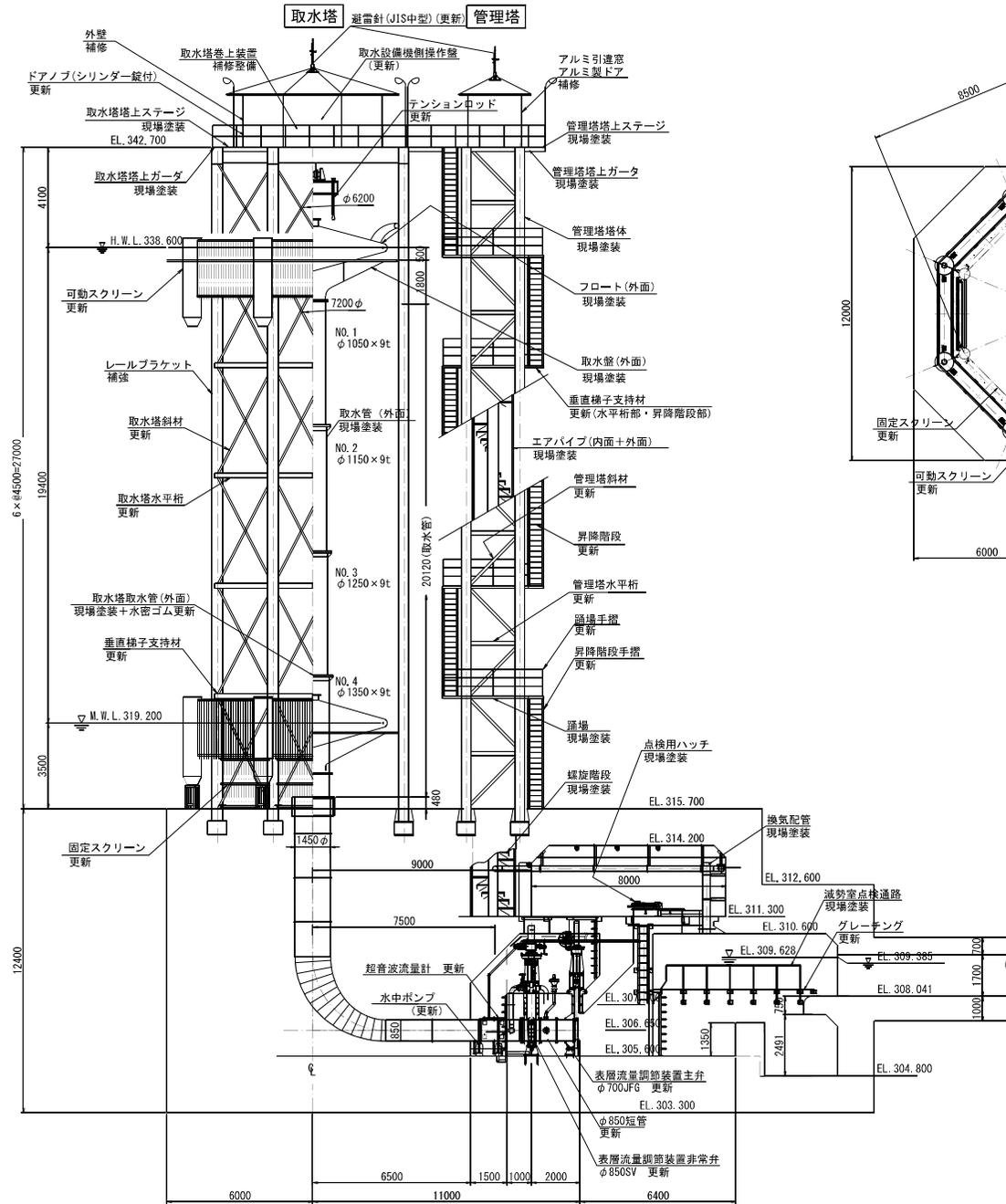
全体平面図

S=1:1300

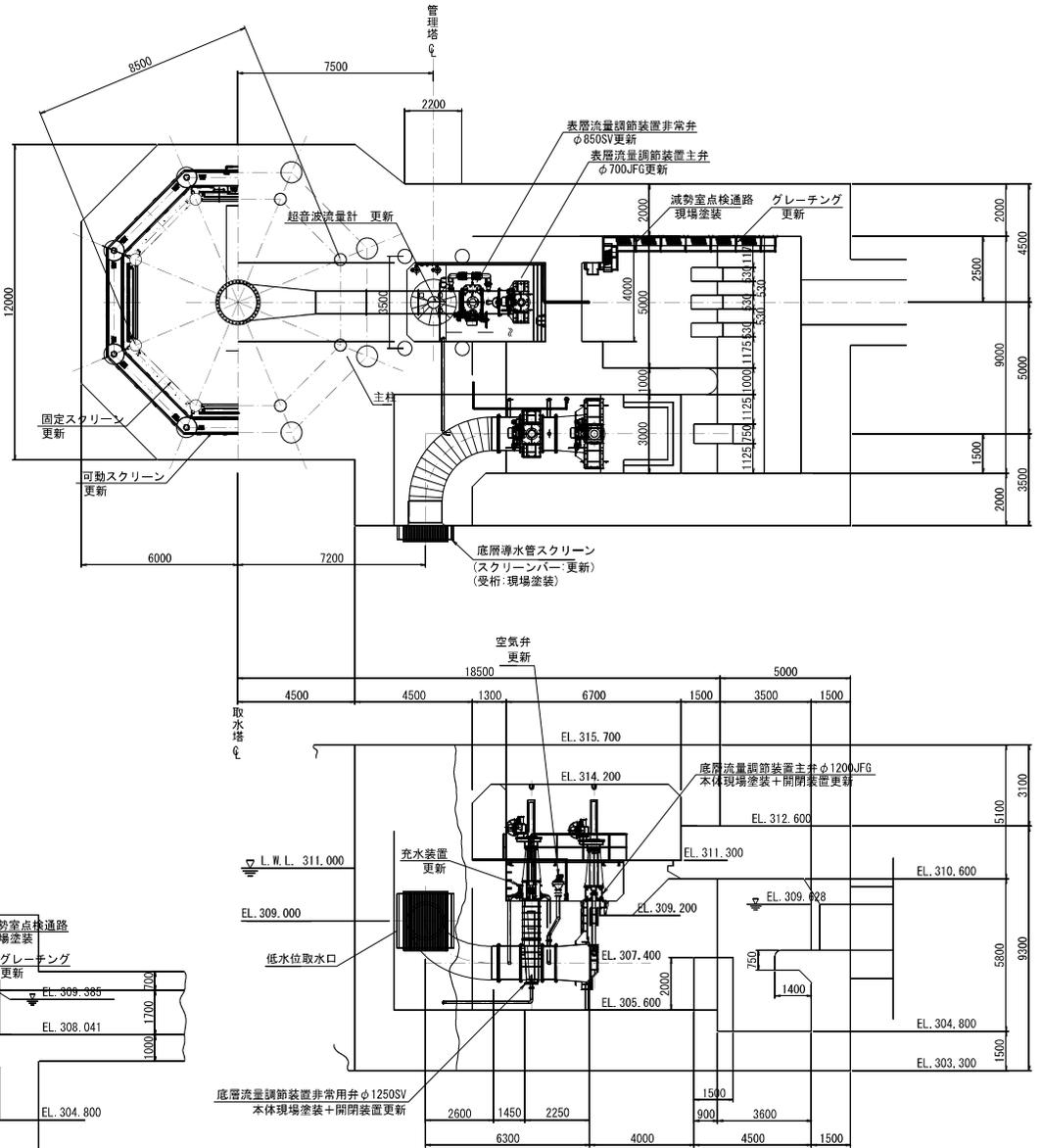


事業名	開成造成土地改良施設整備事業安積疏水二期地区		
施設名 (施設番号)	深田調整池 (0207100020015)		
図面名	全体平面図		
作成年月日	平成31年 3月20日		
縮尺	S=1:1300	図面番号	2-1
作成者	東北農政局明沢限土地改良調査管理事務所 技師 前水特別受検者 野		

取水設備 整備全体図



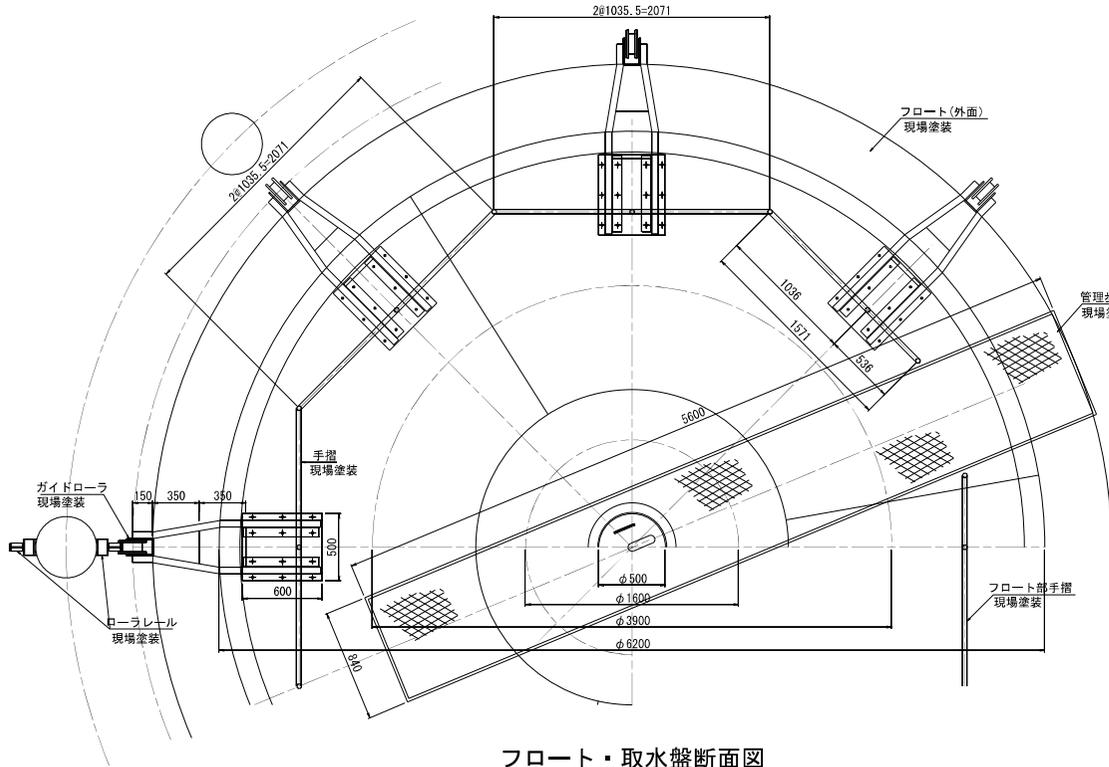
表層流量調節装置断面図



底層流量調節装置断面図

事業名	国営清成土地改良施設整備事業安積池二期地区
施設名 (施設番号)	深田調整池 (0207100020015)
図面名	取水設備 整備全体図
作成年月日	平成31年 3月20日
縮尺	S=1:100 図面番号 2-4
作成者	東北農政局阿武隈土地改良課管理事務所 安積池水特別協議会

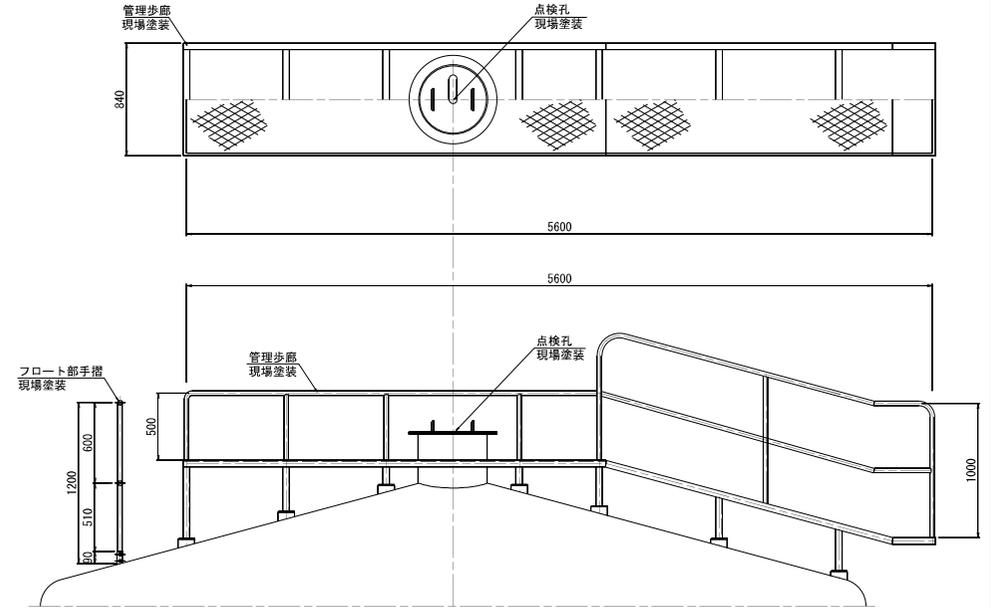
フロート・取水盤平面図
S=1:20



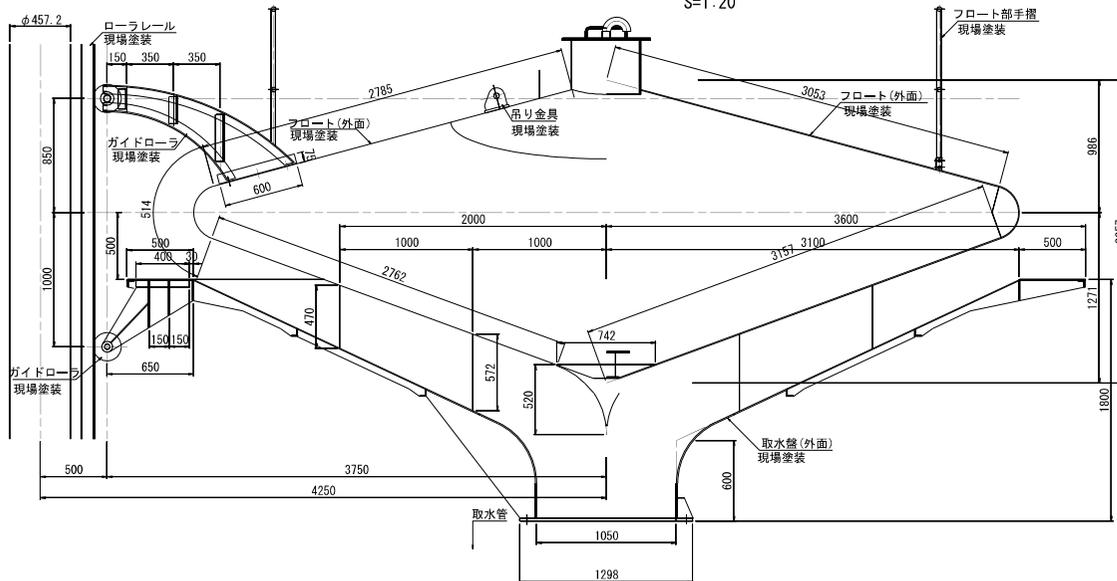
取水設備 フロート・取水盤 補修図

- <注記>
1. 現場塗装の塗装仕様は下記のとおりとする。
(フロート(外面))
 素地処理: 第3種ケレン
 第1層: エポキシ樹脂塗料(下塗り) 100μm
 第2層: エポキシ樹脂塗料(下塗り) 100μm
 第3層: エポキシ樹脂塗料(中塗り) 40μm
 第4層: エポキシ樹脂塗料(上塗り) 40μm
 (取水盤(外面))
 素地処理: 第3種ケレン
 第1層: 変性エポキシ樹脂塗料(下塗り) 100μm
 第2層: 変性エポキシ樹脂塗料(下塗り) 100μm
 第3層: 変性エポキシ樹脂塗料(上塗り) 100μm

管理歩廊詳細図
S=1:20

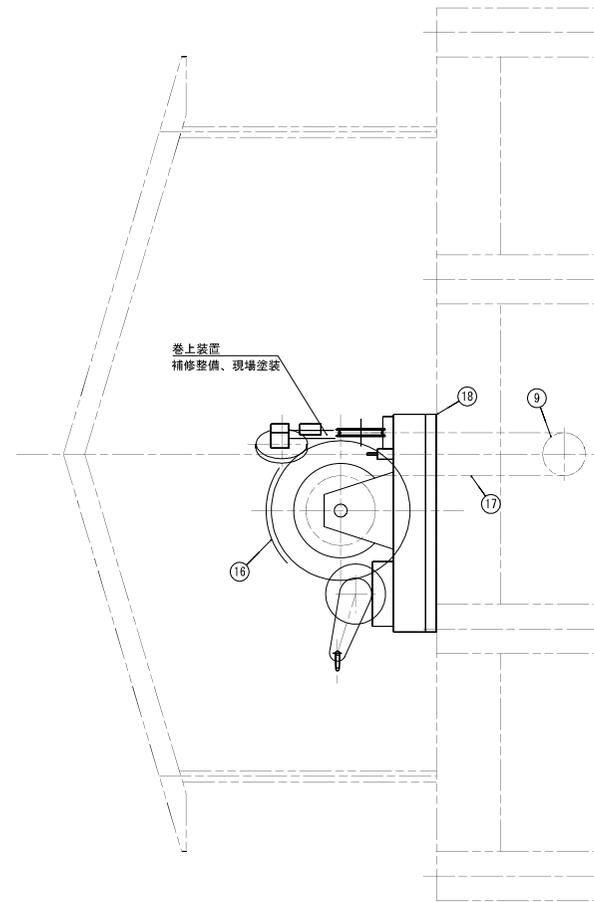
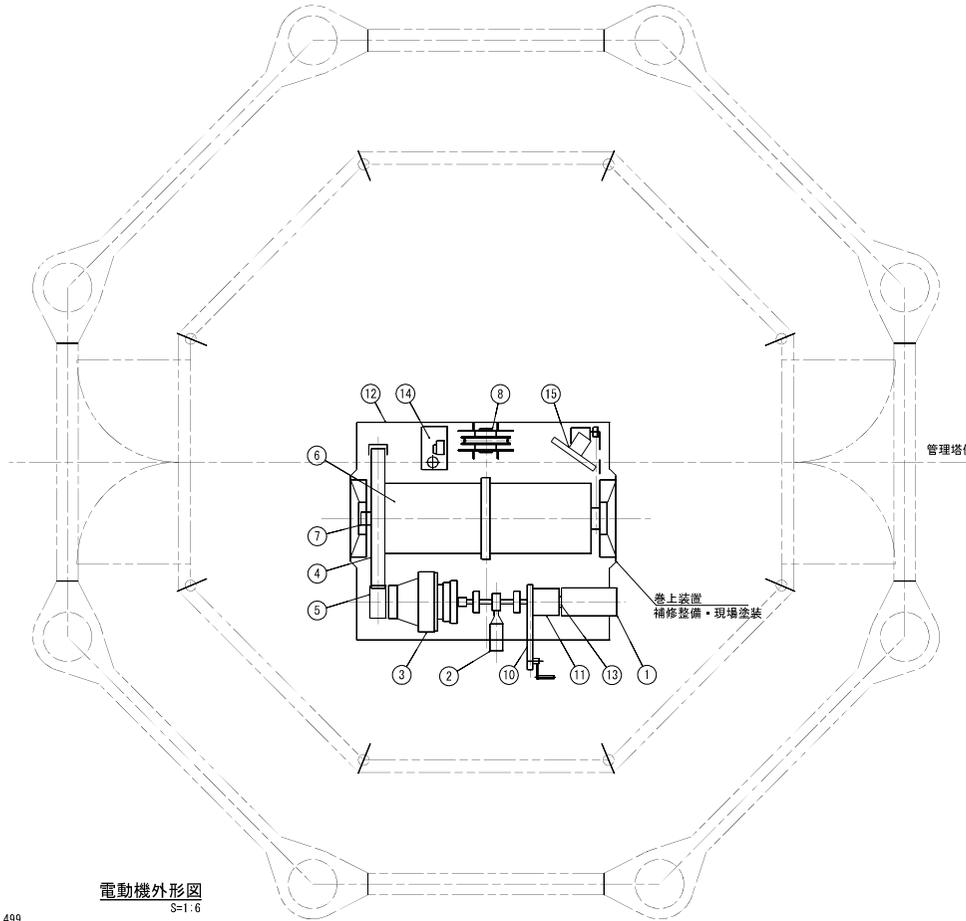


フロート・取水盤断面図
S=1:20

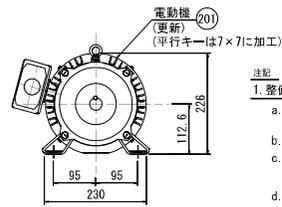
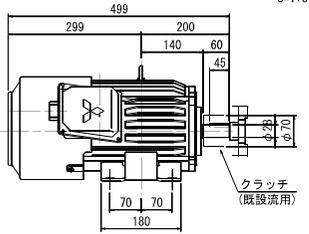


事業名	国営造成土地改良施設整備事業安積疎水二期地区
施設名 (施設番号)	深田調整池(0207100020015)
図面名	取水設備 フロート・取水盤 補修図
作成年月日	平成31年 3月20日
縮尺	S=1:20 図面番号 2-5
作成者	東北農政局阿武隈土地改良調査管理事務所 安積疎水特別整備支所

取水設備 取水塔巻上装置 改修図

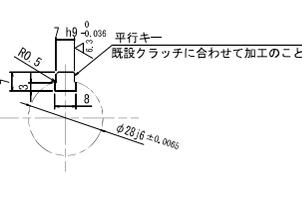
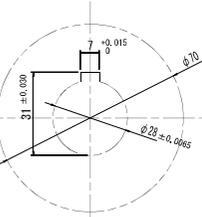


電動機外形図 S=1:6



既設クラッチ詳細図 S=1:1

電動機軸詳細図 S=1:1



注記

- 整備内容は以下の通りとする。
 - a. 電動機は新規取替とし、工場にて既設クラッチも組込みのこと。平行キーはキー幅を8mmから7mmに加工のこと。
 - b. ワイヤロープは清掃・グリス塗布のこと。
 - c. ドラムギヤ、ピニオンギヤ、軸継手、手動巻上機のリングチェーンは清掃・グリス塗布のこと。
 - d. サイクロ減速機は、オイル交換のこと。

巻上装置仕様	
巻上荷重	20t
巻上速度	0.3m/min
電動機	電磁ブレーキ付 2.2kw 6P 連続定格
揚程	20m
ワイヤロープ	JIS G3525 7号 6×61メッキ種 φ30mm
ドラム径	PCD 650mm
シープ径	PCD 400mm
電源	3φ3W AC200V 50Hz

番号	名称	適用	材質	整備区分
1	電動機 (電磁ブレーキ付)	2.2kw 6P	購入品	更新
2	電動油圧押し式制動機	手動強め装置	—	補修整備
3	サイクロ減速機	H616 i=1/43×17	—	補修整備
4	ドラムギヤ	M14 92N	SS400	補修整備
5	ドラムピニオン	M14 21N	S45C	補修整備
6	ドラム	—	SS400, LBC	補修整備
7	ドラム軸	—	S45C	補修整備
8	シープ (エコライザ)	—	SS400	補修整備
9	シープ (フロント側)	—	SS400, LBC	補修整備
10	手動巻上装置	—	SS400	補修整備
11	電動手動切換装置	—	SS400	補修整備
12	フレーム	—	SS400	補修整備
13	リミットスイッチ	電動手動 切換用	—	補修整備
14	リミットスイッチ	巻上 非常上限	—	補修整備
15	開度計	巻上巻下限用リミットスイッチ	SS400	補修整備
16	カバー	—	SS400	補修整備
17	ワイヤロープ	6×61 めっき φ30	—	補修整備
18	フレーム架台	—	SS400	補修整備

＜注記＞

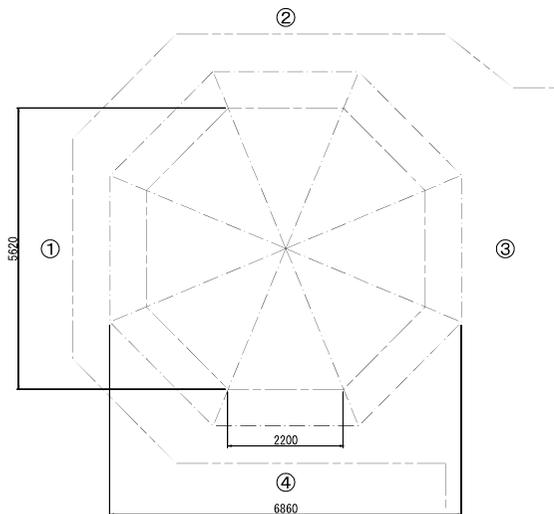
- 現場塗装の塗装仕様は下記のとおりとする。
 (巻上装置) 現地調整
 第1層 弱溶剤性変性エポキシ樹脂塗料 (下塗り) 80 μm
 第2層 弱溶剤性変性エポキシ樹脂塗料 (下塗り) 80 μm
 第3層 弱溶剤性ポリウレタン樹脂塗料 (中塗り) 40 μm
 第4層 弱溶剤性ポリウレタン樹脂塗料 (上塗り) 30 μm

事業名	国営造成土地改良施設整備事業安積分水二期地区
施設名 (施設番号)	深田調整池 (0207100020015)
図面名	取水設備 取水塔巻上装置 改修図
作成年月日	平成31年 3月20日
縮尺	図示 図面番号 2-13
作成者	東北農政局阿武隈土地改良調査管理事務所 安積分水特別調整池

取水設備 取水塔建屋補修図

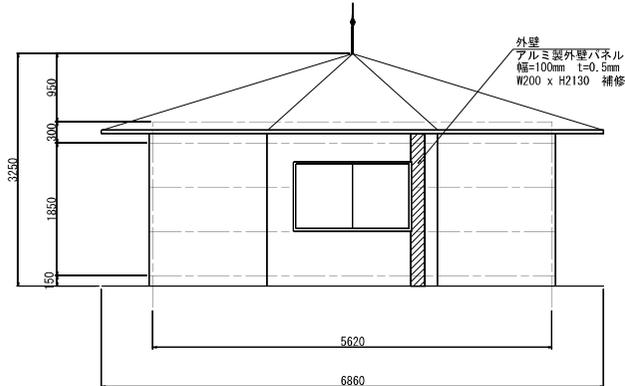
取水塔建屋伏図

S=1:30



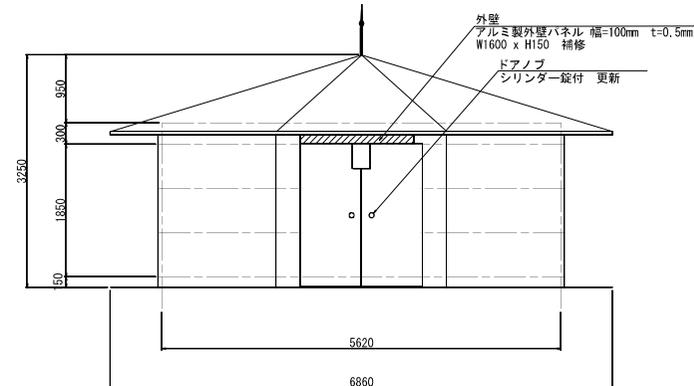
①立面図

S=1:30



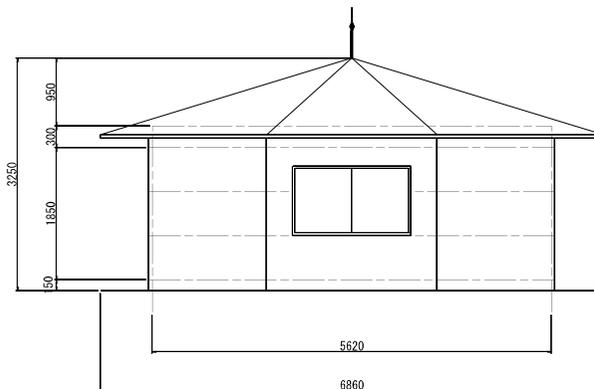
②立面図

S=1:30



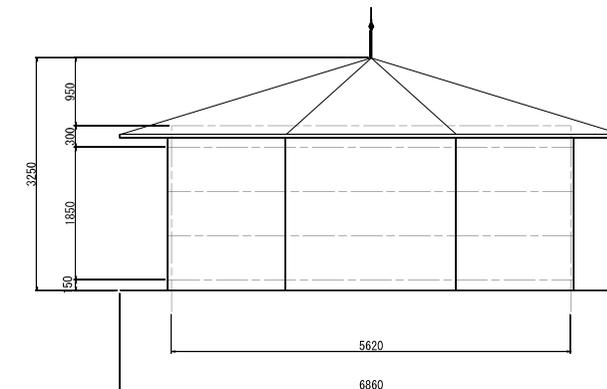
③立面図

S=1:30



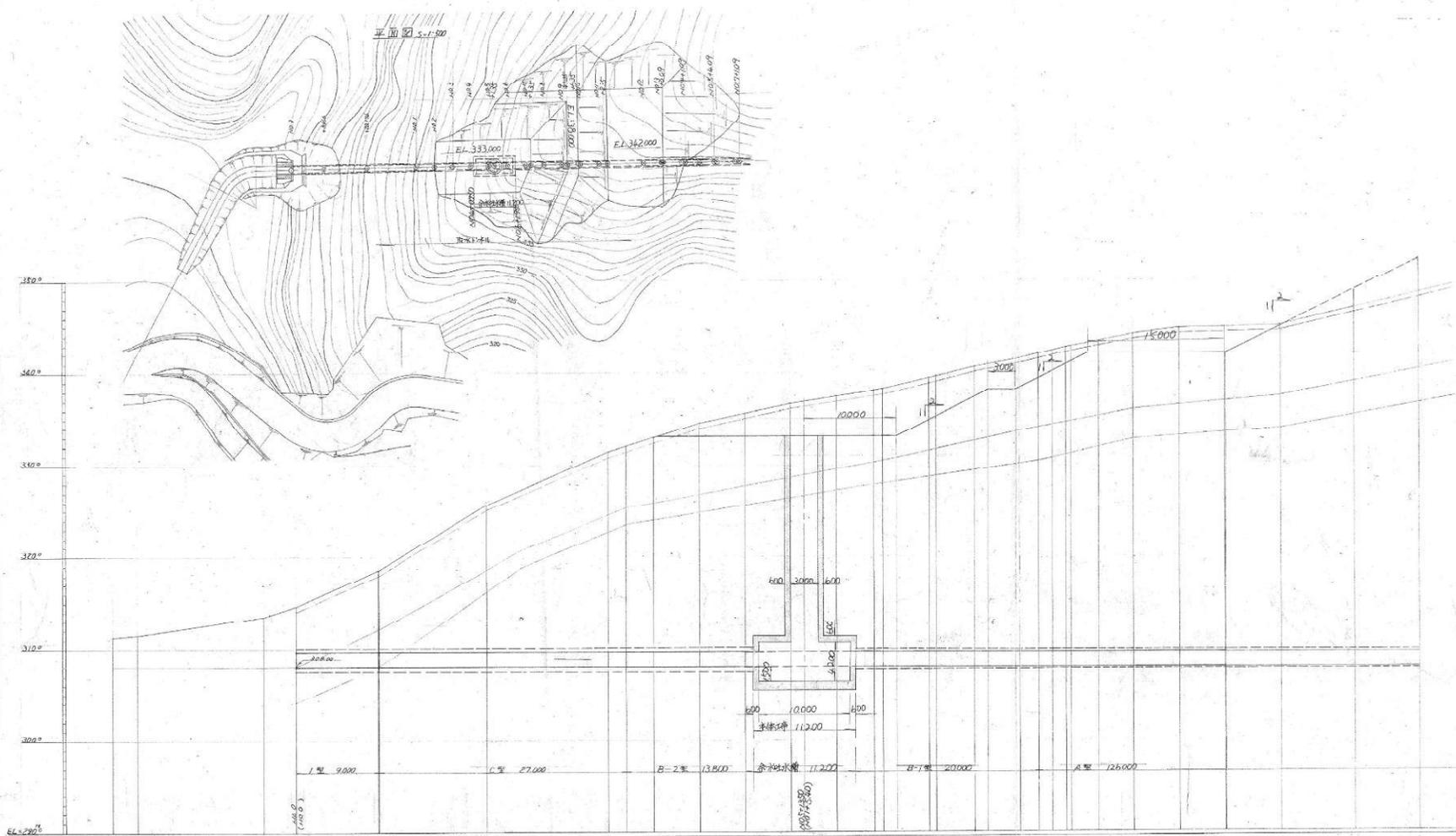
④立面図

S=1:30



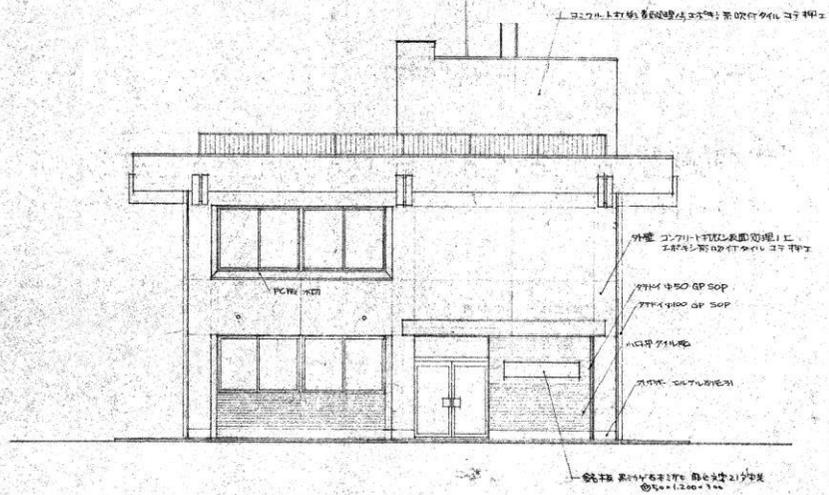
符号・形式	鋼製両開き戸		
姿図			
場所	数量	鋼製両開き戸 1800×2000	1
金物	ステンレス製丁番、シリンダー錠		
備考	ドアノブ更新		

事業名	国営造成土地改良施設整備事業安積疎水二期地区
施設名 (施設番号)	深田調整池 (0207100020015)
図面名	取水設備 取水塔建屋補修図
作成年月日	平成31年 3月20日
縮尺	S=1:30 図面番号 2-14
作成者	東北農政局阿武隈土地改良調査管理事務所 安積取水特別協議会

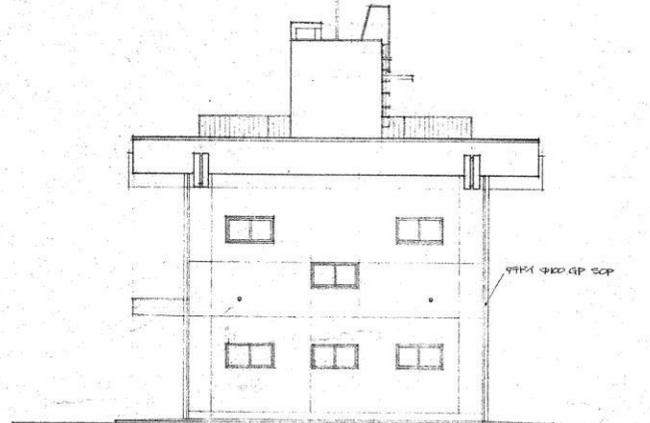


別点	断面距離	断面高	断面積	断面積	断面積
1.200	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
	1.000	1.000	1.000	1.000	1.000
	2.000	2.000	4.000	4.000	4.000
	3.000	3.000	9.000	9.000	9.000
	4.000	4.000	16.000	16.000	16.000
	5.000	5.000	25.000	25.000	25.000
	6.000	6.000	36.000	36.000	36.000
	7.000	7.000	49.000	49.000	49.000
	8.000	8.000	64.000	64.000	64.000
	9.000	9.000	81.000	81.000	81.000
	10.000	10.000	100.000	100.000	100.000
	11.000	11.000	121.000	121.000	121.000
	12.000	12.000	144.000	144.000	144.000
	13.000	13.000	169.000	169.000	169.000
	14.000	14.000	196.000	196.000	196.000
	15.000	15.000	225.000	225.000	225.000
	16.000	16.000	256.000	256.000	256.000
	17.000	17.000	289.000	289.000	289.000
	18.000	18.000	324.000	324.000	324.000
	19.000	19.000	361.000	361.000	361.000
	20.000	20.000	400.000	400.000	400.000
	21.000	21.000	441.000	441.000	441.000
	22.000	22.000	484.000	484.000	484.000
	23.000	23.000	529.000	529.000	529.000
	24.000	24.000	576.000	576.000	576.000
	25.000	25.000	625.000	625.000	625.000
	26.000	26.000	676.000	676.000	676.000
	27.000	27.000	729.000	729.000	729.000
	28.000	28.000	784.000	784.000	784.000
	29.000	29.000	841.000	841.000	841.000
	30.000	30.000	900.000	900.000	900.000

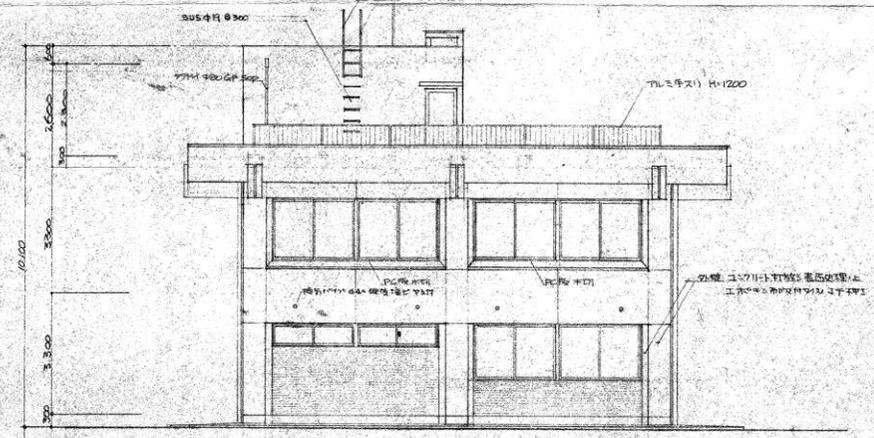
設計	監理	年月日



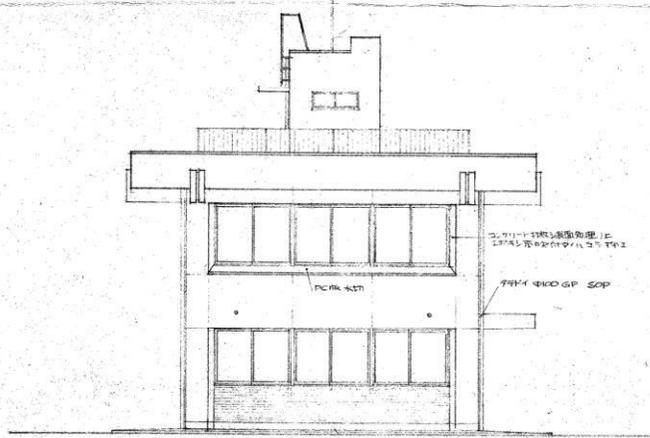
北立面図



西立面図

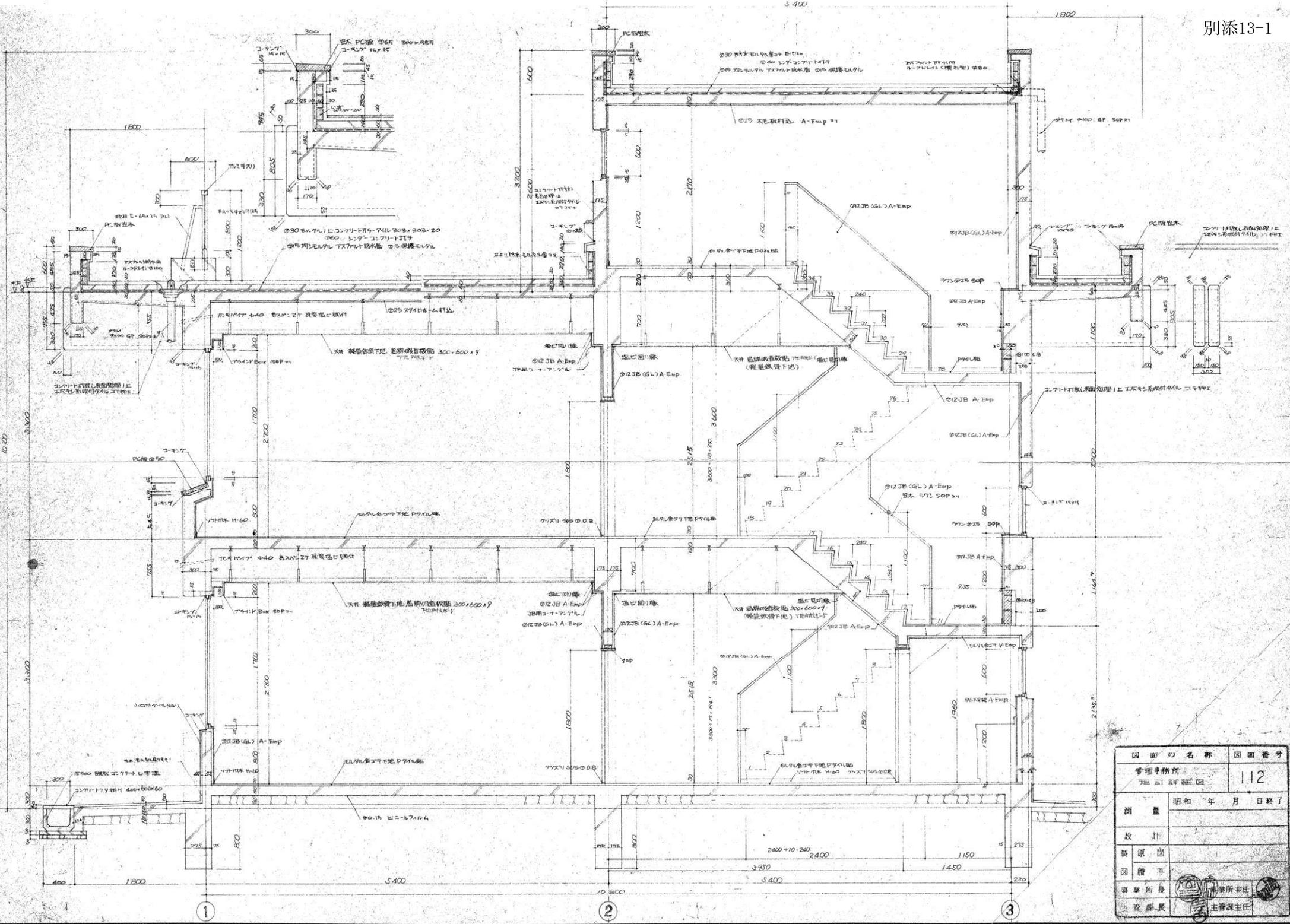


南立面図



東立面図

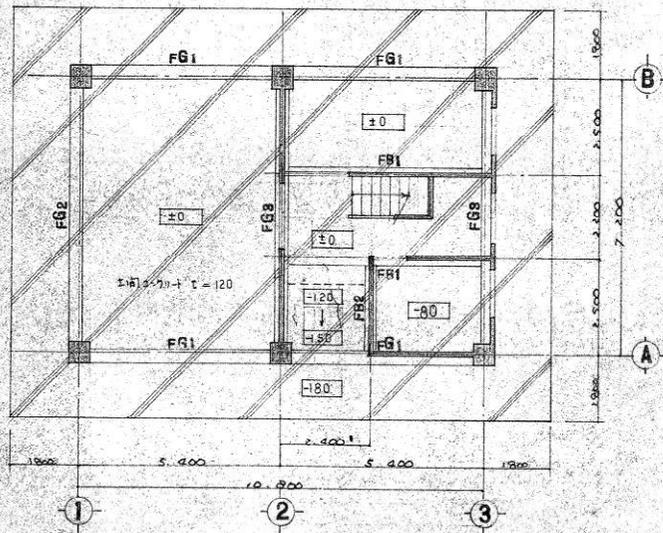
図面の名称	図面番号
管理事務所 立面図	111
測 量	昭和 年 月 日終了
設 計	
製 図	
図 騰 写	
事業所長	事業所主任
主 査 課 長	主 査 課 主任



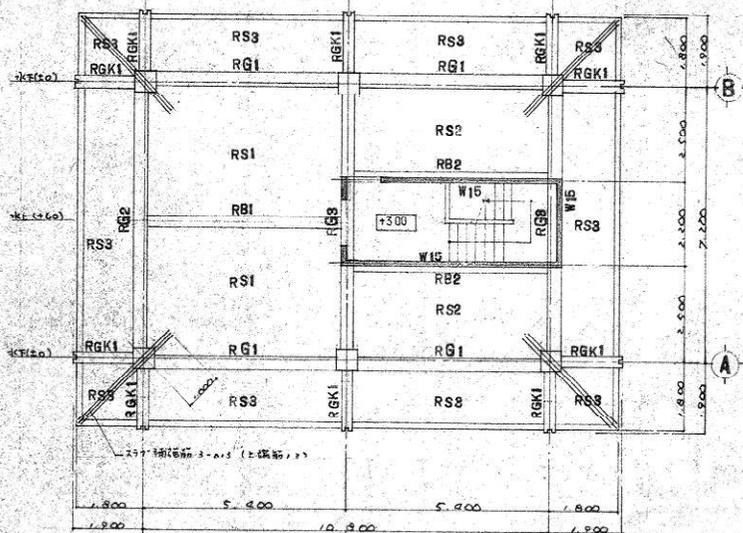
図面の名称	図面番号
管理事務所 建築設計図	112
測量	昭和 年 月 日終了
設計	
製原図	
図騰	
専務所長	専務所主任
技師長	技師主任

設計仕様

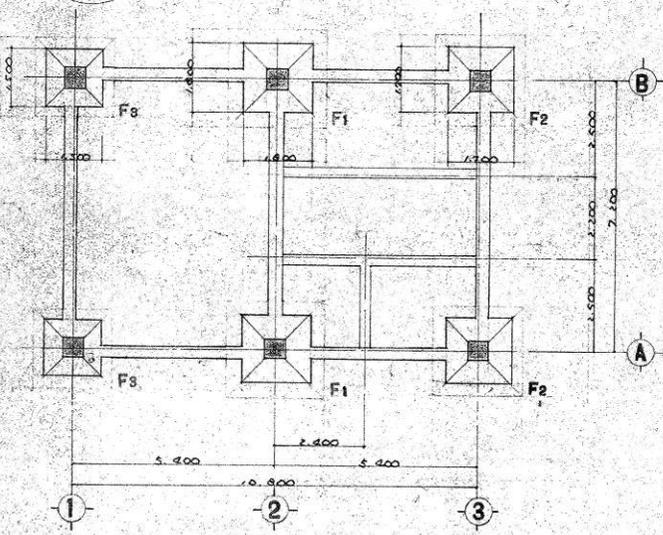
1. 本構造図 = 配筋+キ等項ハ全テ「補記仕様書」ハ「配筋標準図」ニ依ルモトスル
2. コンクリート設計基準強度: $28F_c = 210 \text{ kg/cm}^2$ (補強躯体)
3. 鉄筋強度: SD30 (規格品) 図中「D」記号ヲ示ス
SR24 (規格相当品) 図中「φ」記号ヲ示ス
4. 鉄筋記号: $\phi 9$ (D10) $\phi 13$ (D13) $\phi 16$ $\phi 19$ $\phi 22$ $\phi 25$
5. 鉄筋継手: $\phi 16$ 以下 — 重手継手 $\phi 19$ 以上 — ガス圧接継手
6. 地盤: 基礎地中実下 — 捨コンクリート $L=50$ 敷砂利 $L=50$
工面コンクリート 割栗石 $L=120$
7. 設計土圧耐力: $F_c = 30 \text{ t/m}^2$ (長期)
8. 壁記号:  鉄筋コンクリート壁
 レンガ壁 (下り壁)



1階床伏図 1/100

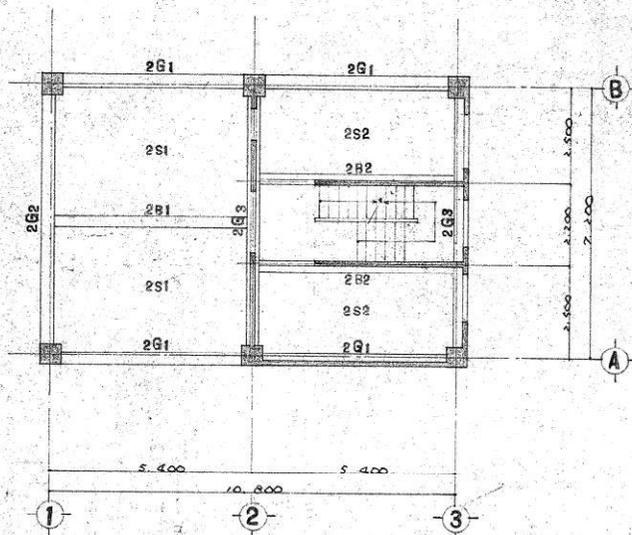


R階床伏図 1/100

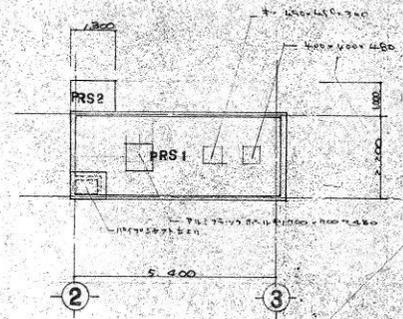


基礎伏図 1/100

註記) 補記仕様書ハ全テW12トスル



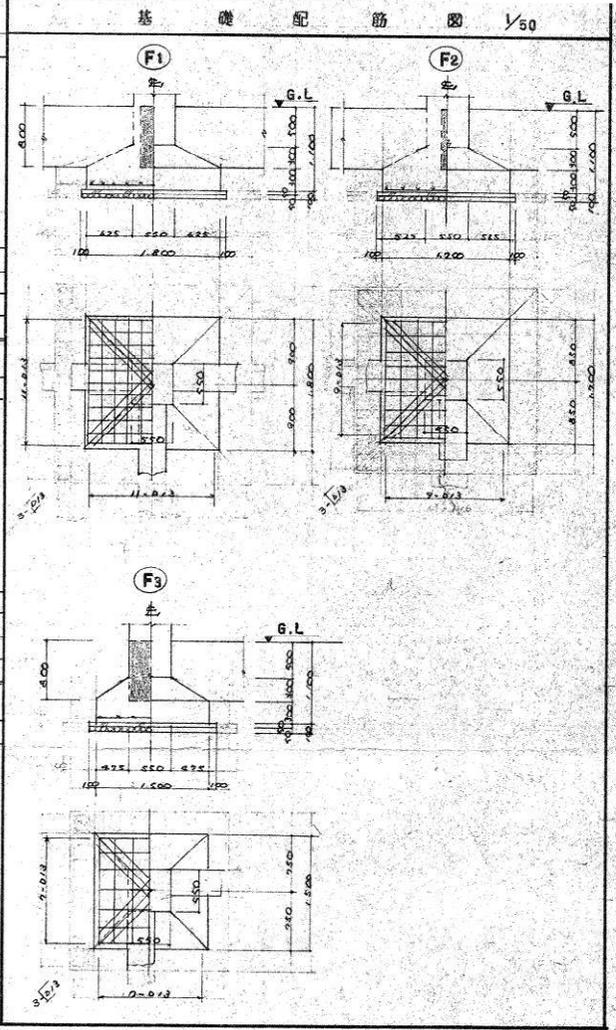
2階床伏図 1/100



PR階床伏図 1/100

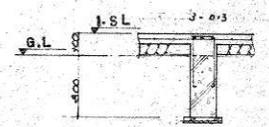
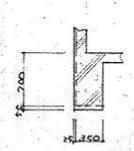
図面名称	図面番号
管理棟階床伏図	T18
基礎Aの1階床伏図	
測量	昭和 年 月 日終了
設計	
製図	
図騰写	
事業所長	事業所主任
主管課長	主管課主任

断面	RG1				RG2		RG3		RGK1		RB1		RB2	
	位置	外端	中央	内端	両端	中央	両端	中央	左端	固定端	両端	中央	両端	中央
梁断面	1													
	上端筋	3-D25	2-D25	3-D25	4-D25	3-D25	5-D25	5-D25	2-D19	3-D19	3-D22	2-D22	3-D22	3-D22
	下端筋	2-D25	3-D25	2-D25	3-D25	4-D25	4-D25	4-D25	2-D19	3-D19	3-D22	4-D22	3-D22	5-D22
	補助筋	2-90				2-90		2-90		2-90				
スリット	S.T.P. D90-C150				S.T.P. D90-C150		S.T.P. D180-C100		S.T.P. D90-C150		S.T.P. D90-C200		S.T.P. D90-C150	
梁表面	2G1				2G2		2G3		2B1		2B2			
	位置	外端	中央	内端	両端	中央	両端	中央	両端	中央	両端	中央		
	1													
	上端筋	4-D25	3-D25	4-D25	6-D25	3-D25	7-D25	4-D25			3-D22	3-D22	3-D22	2-D22
下端筋	3-D25	3-D25	3-D25	4-D25	4-D25	5-D25	5-D25			3-D22	5-D22	3-D22	4-D22	
補助筋	2-90				2-90		2-90							
スリット	S.T.P. D90-C150				S.T.P. D90-C150		S.T.P. D180-C100				S.T.P. D90-C200		S.T.P. D90-C200	
梁断面	FG1				FG2		FG3		FB1		FB2			
	位置	外端	中央	内端	両端	中央	両端	中央	全断面		全断面			
	1													
	上端筋	3-D25	3-D25	3-D25	3-D25	3-D25	3-D25	3-D25			3-D22	3-D19		
下端筋	3-D25	3-D25	3-D25	3-D25	3-D25	3-D25	3-D25			3-D22	3-D19			
補助筋	2-90				2-90		2-90							
スリット	S.T.P. D90-C150				S.T.P. D90-C150		S.T.P. D90-C150				S.T.P. D90-C200		S.T.P. D90-C200	

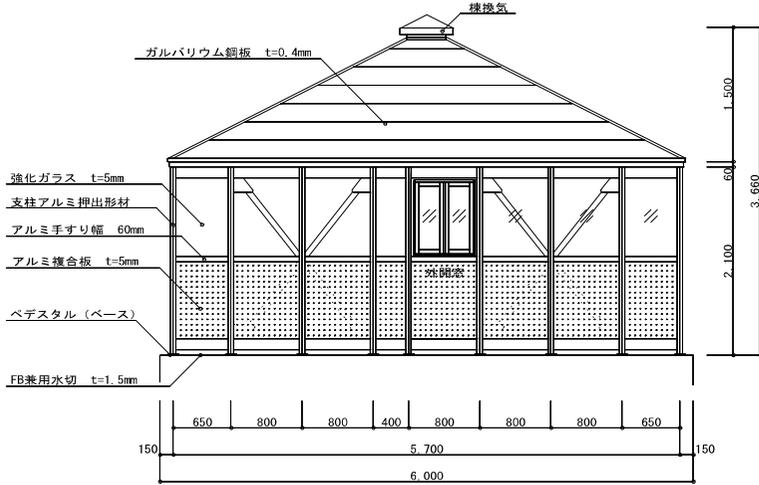


外部通リ大梁打敷ハ全下図ニヨル

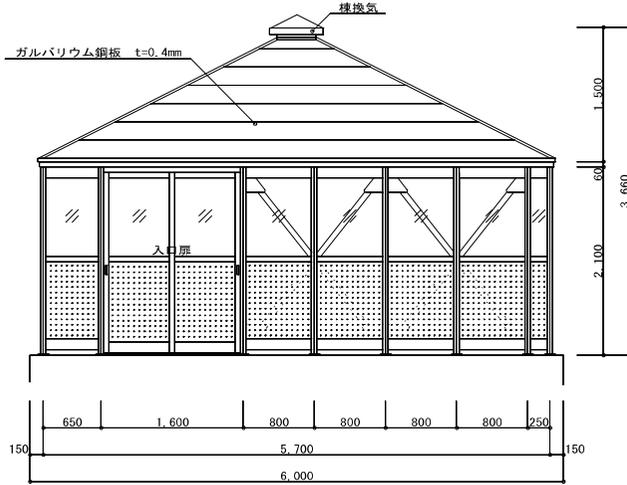
地中梁ワケ補強筋



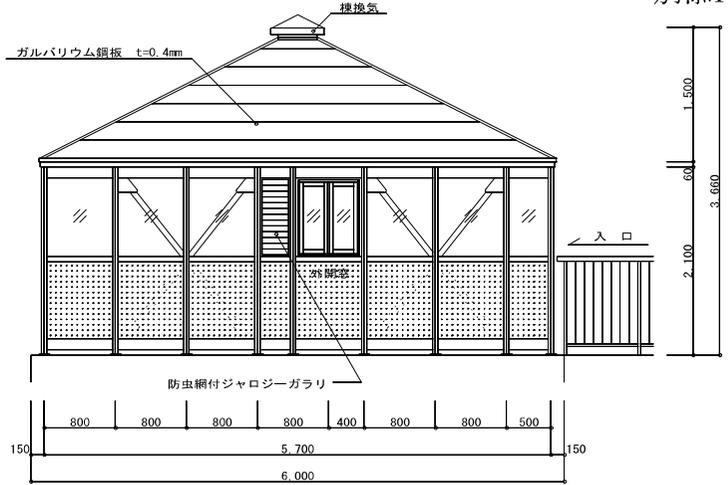
図面の名称	図面番号
管理事務所 梁断面配筋図	119
測量	昭和 年 月 日終了
設計	
製図	
図検	
事業所長	事業所主任
主管課長	主管主任



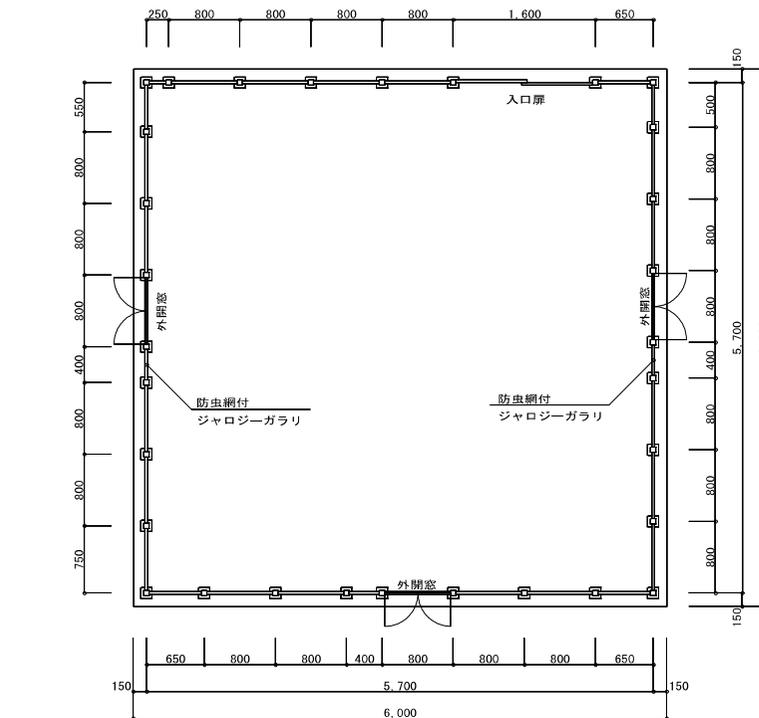
背面図 S=1/60
(第1堰柱)



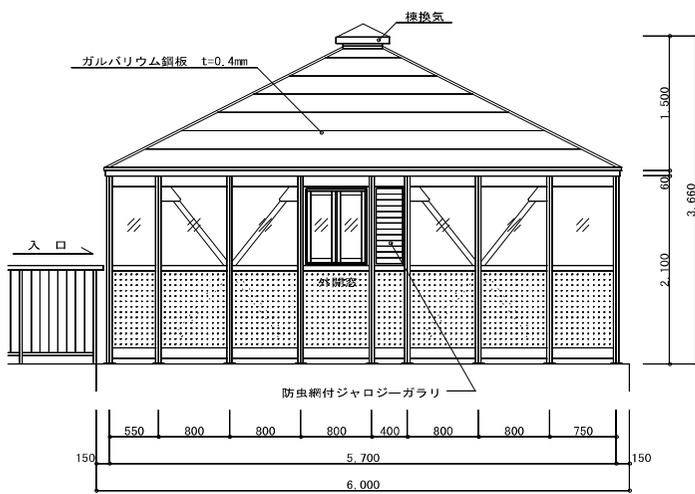
正面図 S=1/60
(第1堰柱)



右側面図 S=1/60
(第1堰柱)

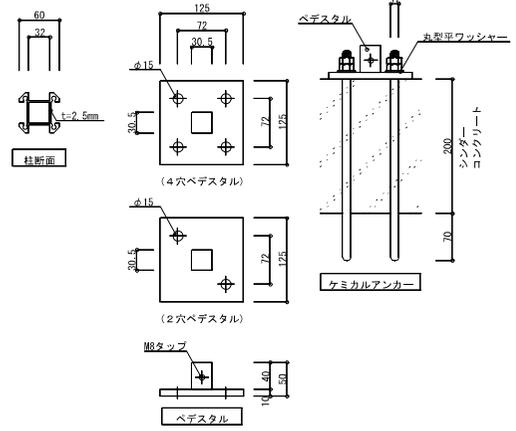


平面図 S=1/60
(第1堰柱)



左側面図 S=1/60
(第1堰柱)

ベDESTAL詳細図 S=1/8

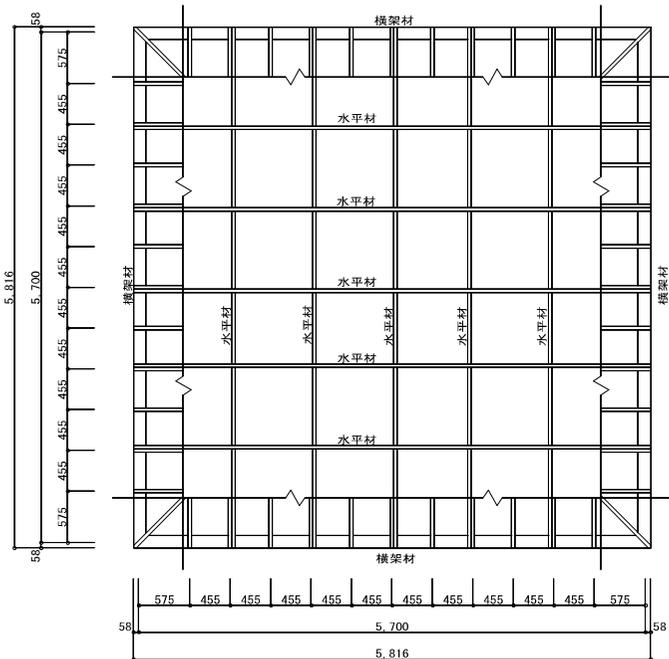


- 特記事項
- 形状寸法等は図面の通りとする。
 - 主要材料の構造方法は、国土交通省告示第410号に準拠する。
(アルミニウム合金造の建築物又は建築物の構造部分の構造方法に関する安全上必要な技術的基準を定める件)
 - 風圧力は速度圧を $q=3.00 \text{ KN/m}^2$ とし、構造計算により安全性を確かめる。
 - 地震力は標準せん断力係数を $C_0=0.3$ とし、構造計算により安全性を確かめる。
 - 外部に面する鋼材はアルミニウム合金、ステンレス鋼とする。

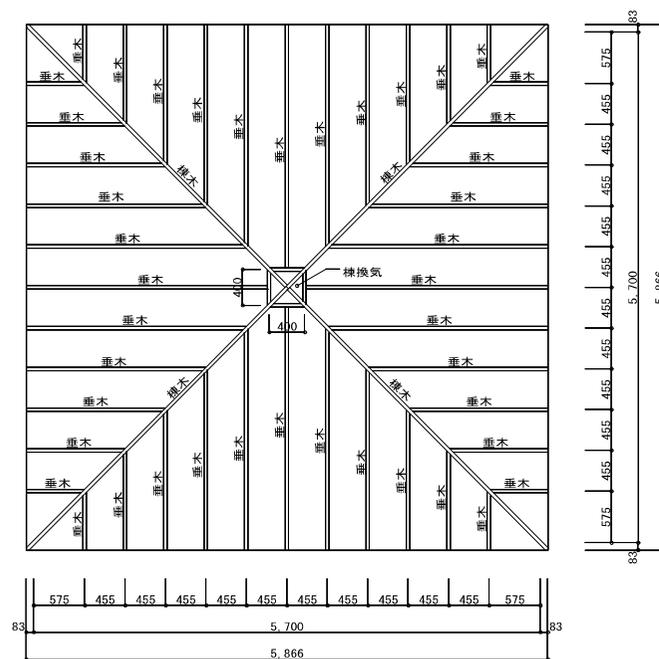
構造	外壁 パネル組立式 (7ルミ建)	面積	32.49m ² (5700×5700)
形状	W: 5700 × B: 5700 × H: 3660		
ガラス性能	品質	5mm 板厚熱線吸収強化ガラス	
	材質	JIS R3206による熱線吸収フロート板ガラス	
アルミ性能	規格	JIS R3206に規定されている強化ガラス	
	品質 (柱部)	アルミニウム合金押出異型形材 肉厚2.5mm~6.75mm アルマイト処理	
アルミ性能 (ベース)	品質	アルミニウム合金押出形材	
	規格	寸法 10mm×60mm アルマイト処理 JIS H4100 (耐食アルミニウム合金押出形材) A6063S-T5	

ボルト性能	材質	ステンレス: A2-50
	規格	JIS B1054
後施工アンカーボルト性能	品質	M12 L=320 (HP12)
	材質	ステンレス: SUS304A
フラットバー水切	材質	SUS304A t=1.5mm
	ベDESTAL	材質 ステンレス: SUS304A
その他	材質	鋼材についてはJIS規格品とする
※ 上記以外はメーカー仕様による		

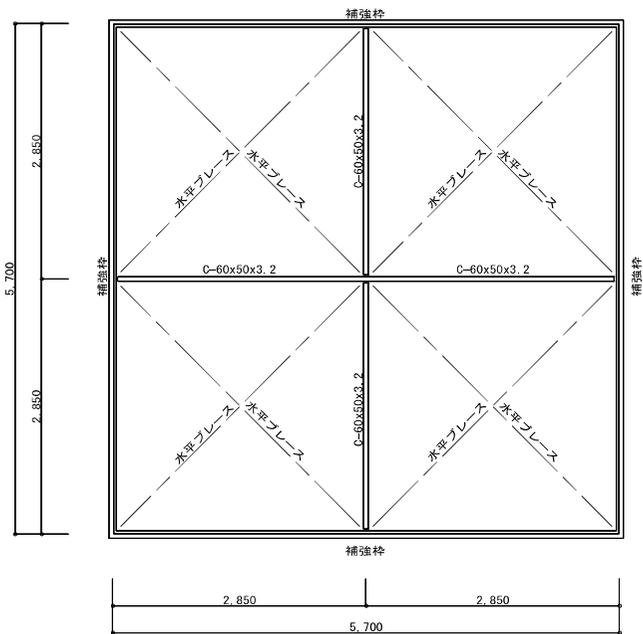
施設管理図	
施設名 (施設番号)	貞山稲防排水門 (20410006022)
図面名	堰上堰室 平面図、立面図、柱脚詳細図 (1/4)
作成年月日	平成 28 年 月 日
尺度	図示 図面番号 1 - 58
作成者	東北農政局仙台台東土地改良建設事業所



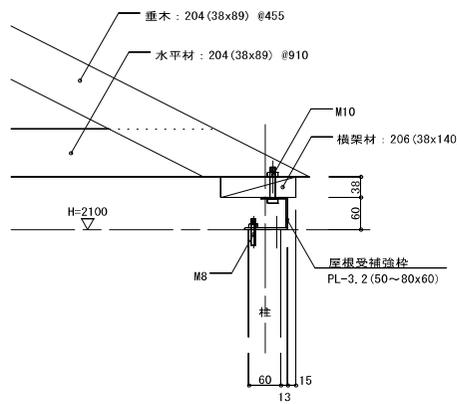
天井伏図 S=1/60



屋根伏図 S=1/60



水平ブレース伏図 S=1/60



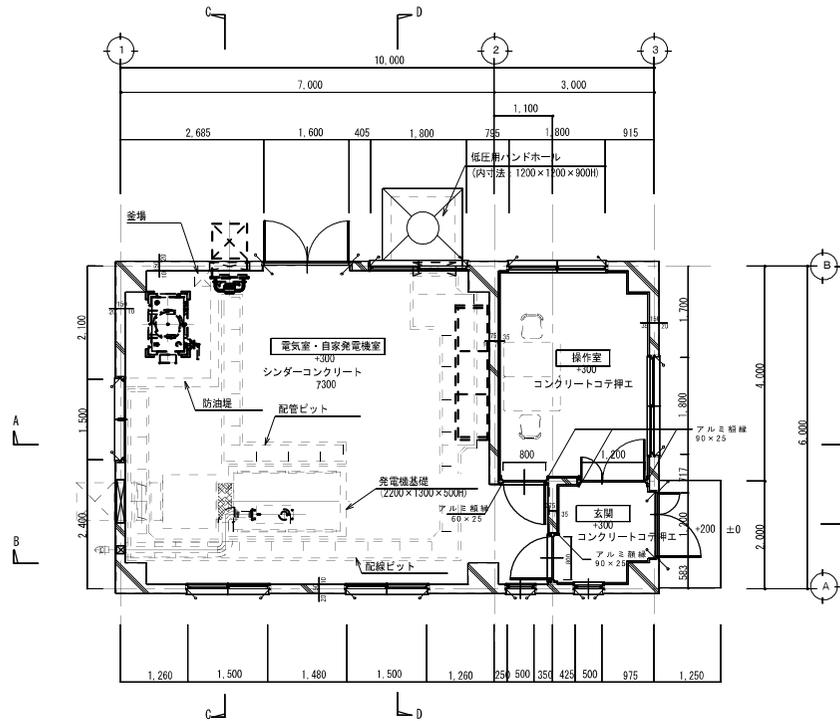
屋根受部詳細図 S=1/10

形状	W: 5700 x B: 5700 x H: 3660	
横木	規格	206 (38x140)
垂木	規格	204 (38x89) @455
水平材	規格	204 (38x89) @910
横架材	規格	206 (38x140) 横使い
その他	規格	204 (38x89)
水平ブレース	規格	M10 (大洋製器工業(株)のハウスブレース) 建物側接合部 G.PL-3.2 BOLT:2-M10
屋根材	規格	ガルバリウム鋼板 t=0.4mm 野地板: 構造用合板 t=12mm
Zマーク規格釘	材質	JIS G3532 鋼線 (SWM-N)
Zマーク平金物	規格	太め釘: ZN40, ZN65
	材質	JIS G3302 鋼板 (SGHC. or. SGCC)
	規格	平金物: SM-12 (太め釘: 4-ZN40)
木質材	規格	折曲げ金物: SF (太め釘: 6-ZN40)
	材質	全てSPF

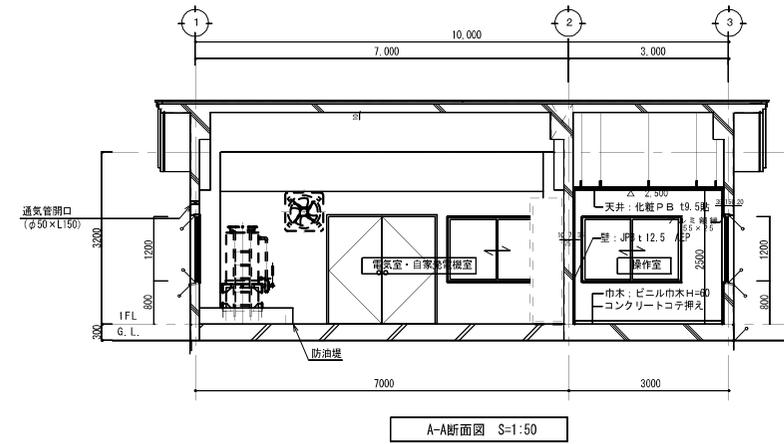
※ 上記以外はメーカー仕様による

施設管理図			
施設名 (施設番号)	貞山稲防潅水門 (20410006022)		
図面名	巻上機室 天井伏図、屋根伏図		
作成年月日	平成 28 年 月 日		
尺度	図示	図面番号	1 - 62
作成者	東北農政局仙台東土地改良建設事業所		

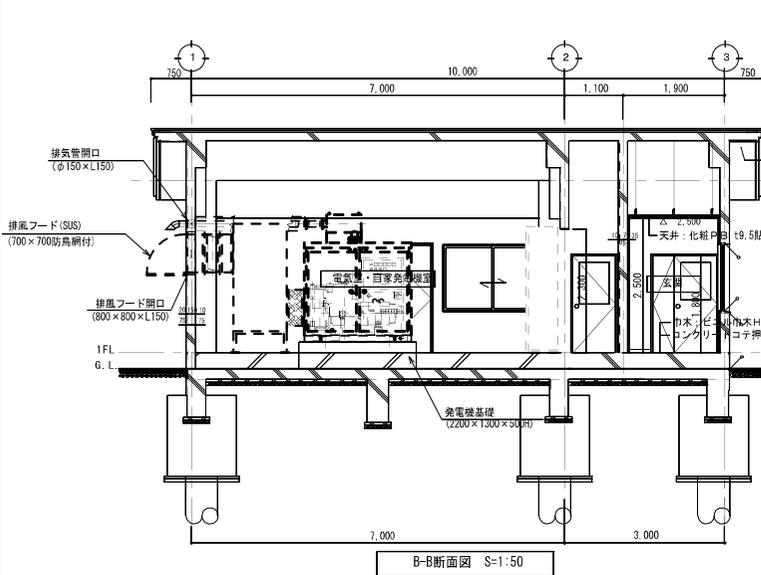
管理室・平面・断面詳細図



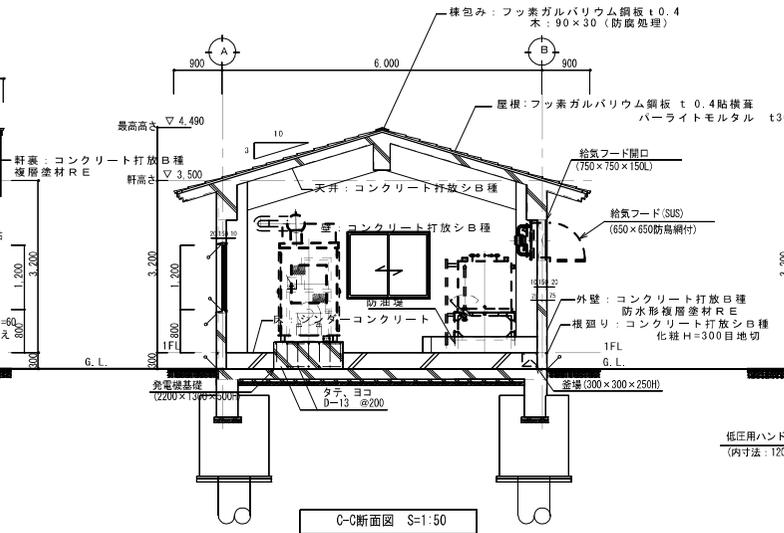
平面詳細図 S=1/50
(註) シーリングを示す



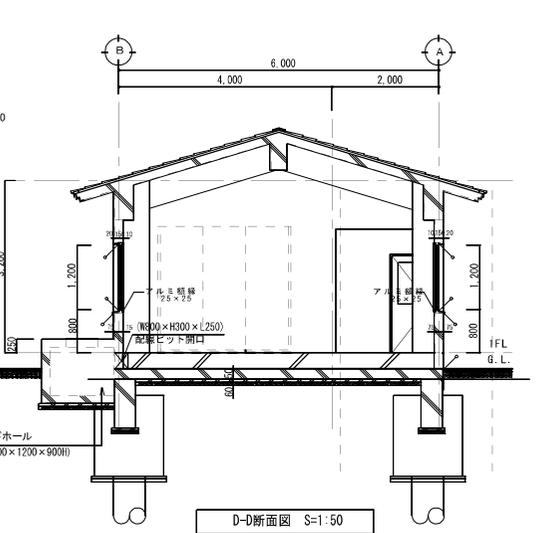
A-A断面図 S=1/50



B-B断面図 S=1/50



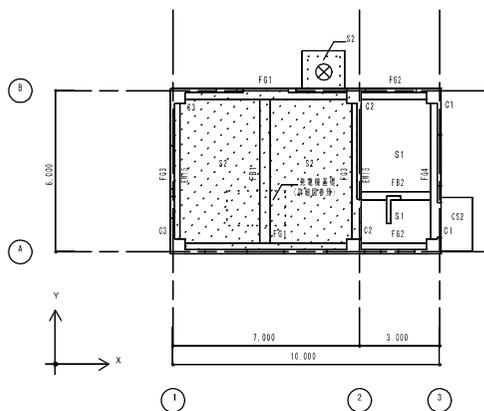
C-C断面図 S=1/50



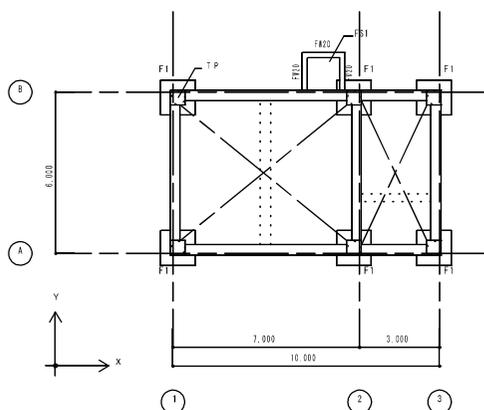
D-D断面図 S=1/50

施設管理図	
施設名 (施設番号)	舟山臨海排水門(204100060022)
図面名	管理室 平面・断面詳細図
作成年月日	平成 28 年 月 日
尺度	図示 図面番号 1 - 88
作成者	東北農政局仙台東土地改良建設事業所

基礎梁伏図・基礎梁リスト



基礎梁伏図 S=1:100
 詳細なき限り下記による。(1FL=6L+300)
 ・壁 W15
 ・スラブ上端 : 1FL±0
 ・内 : 1FL+300
 ・基礎梁上端 : 1FL+300



基礎伏図 S=1:100

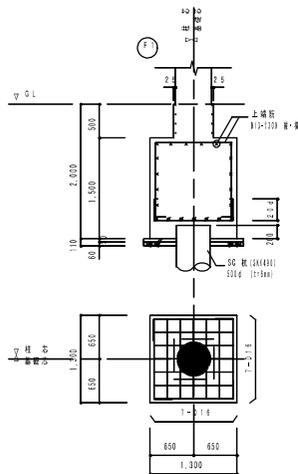
概要欄	
施工法	BR3工法 (プレローリング鉄大規模固工法 認定番号：建設省特任特許第9号)
鉄種	上鉄 - SC鉄 中鉄 - 202鉄 (8軸) 下鉄 - 202鉄 (8軸)
鉄径	50φ
記号	・
鉄長	L=29m
鉄重	700kg/本
鉄本数	6本
備考	TP：試験機を示す。

基礎梁断面リスト S=1:40
 詳細なき限り下記による。
 ・断面 D13
 ・中止の鉄筋 216ϕ100以内

番号	F01		F02	F03	F04	F01		F02	共通事項
	端部	中央	全断面	全断面	全断面	端部	中央	全断面	
断面									
s x D	400 x 900		400 x 900	350 x 800	400 x 800	400 x 800		300 x 500	
上端筋	5-D15	4-D25	4-D25	3-D22	4-D25	4-D22	4-D22	3-D19	
下端筋	4-D25	4-D25	4-D25	3-D22	4-D25	4-D22	4-D22	3-D19	
スローラップ	□-D13-D150		□-D13-D150	□-D13-D200	□-D13-D150	□-D10-D150		□-D11-D200	

基礎断面リスト S=1:40

* 取付種別等は詳細を参照すること。



杭芯ずれに対する対応法 (一本杭の場合) *一本杭で100mm以下の杭芯ずれが生じた場合、監理者及び設計者に報告の上、下記による対応を行うこと。

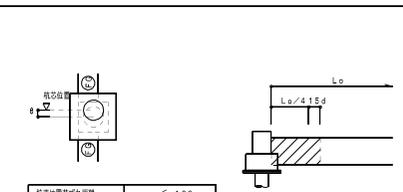
1. 杭芯ずれに合わせて、フーチングをずらして施工可能とする。
 2. 周辺基礎や地盤状況により、杭芯ずれに合わせて、フーチングをずらして施工できない場合は、下記によるものとする。

① ϕ_x, ϕ_y : 杭芯ずれ距離

② ϕ_x, ϕ_y : 杭芯ずれ距離

③ ϕ_x, ϕ_y が 100mm を超える場合は、設計者の確認を要すること。
 * 両方向に芯ずれが生じた場合は、図(a)のずれは、(a), (b), (c) の場合による。

3. 杭芯ずれによる基礎梁の補強は下記によるものとする。

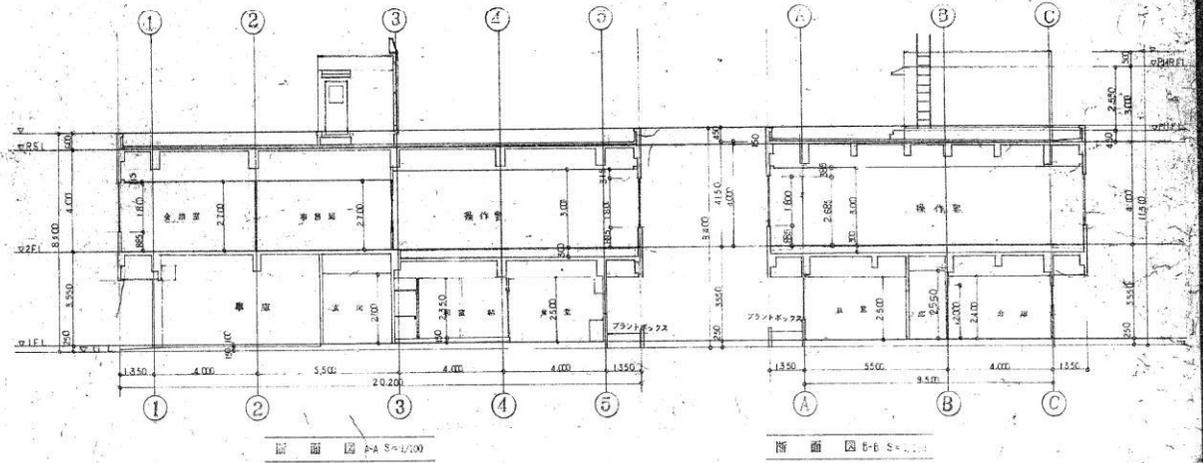
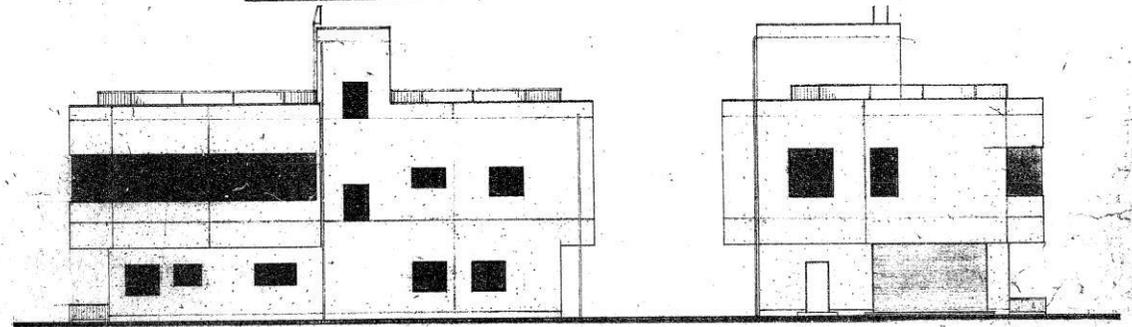
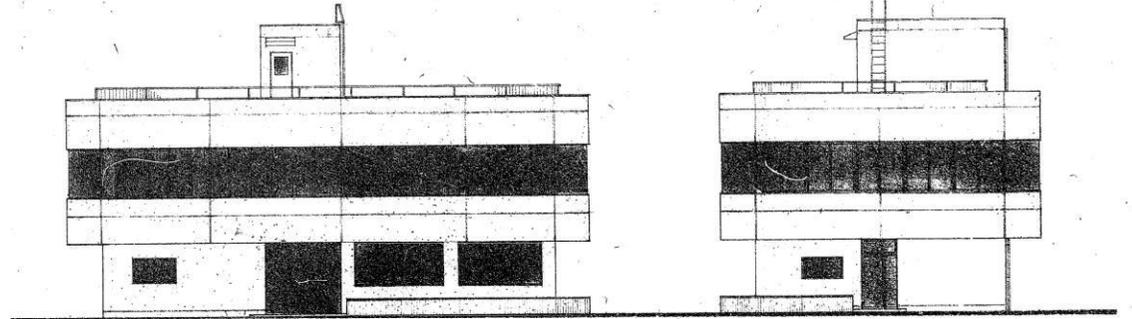
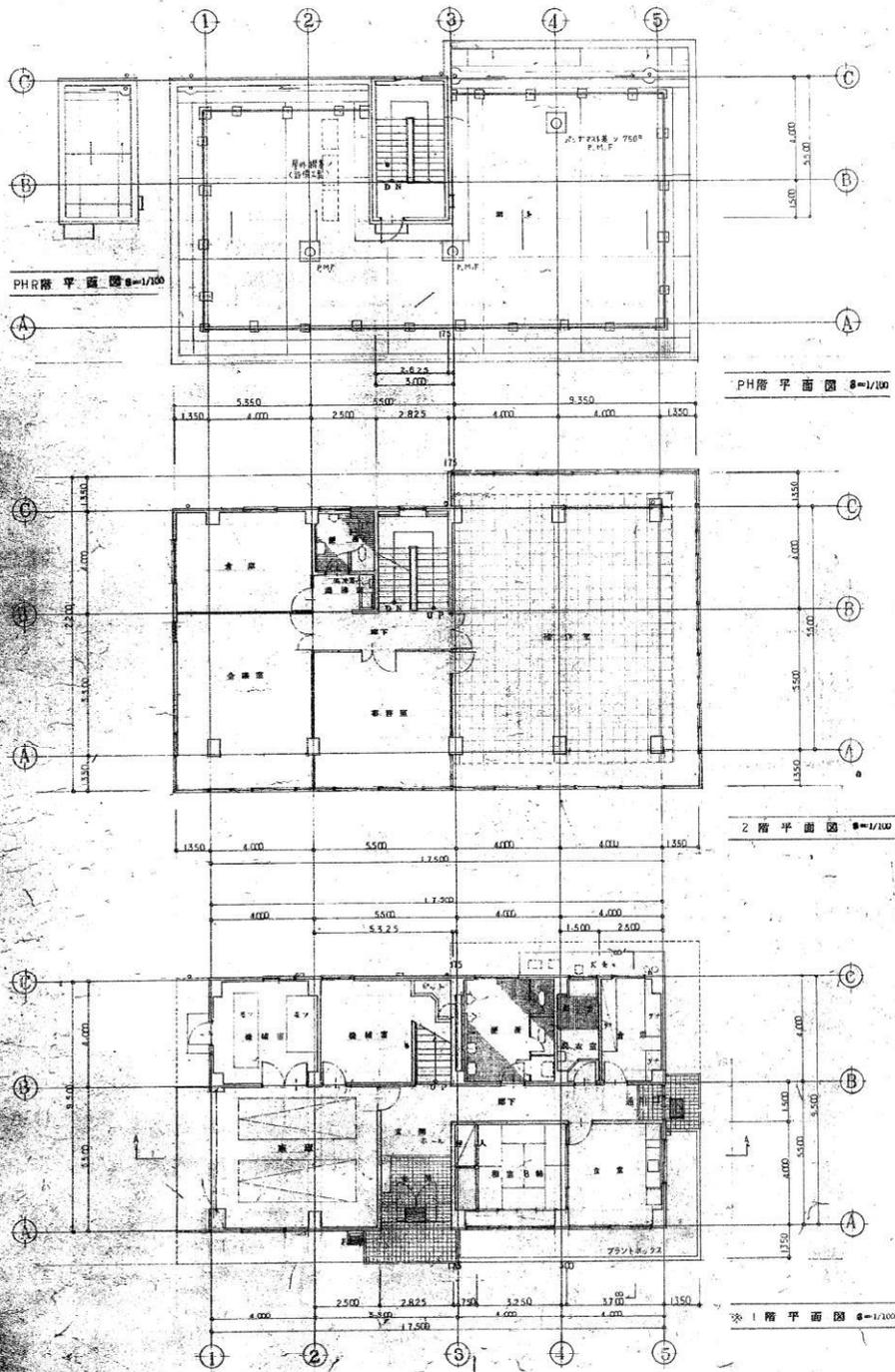


杭芯位置ずれ距離	$\phi \le 100\text{mm}$	
基礎梁	上端筋	補強なし
	下端筋	補強なし

* ϕ が 100mm を超えた場合は、設計者の確認を要すること。

施設管理欄	
施設名 (建設番号)	舟山臨海排水門 (204100060022)
図面名	基礎梁伏図・基礎梁リスト
作成年月日	平成 28 年 月 日
尺度	東示 図面番号 1 - 89
作成者	東北建設局仙台台東土地改良建設事業所

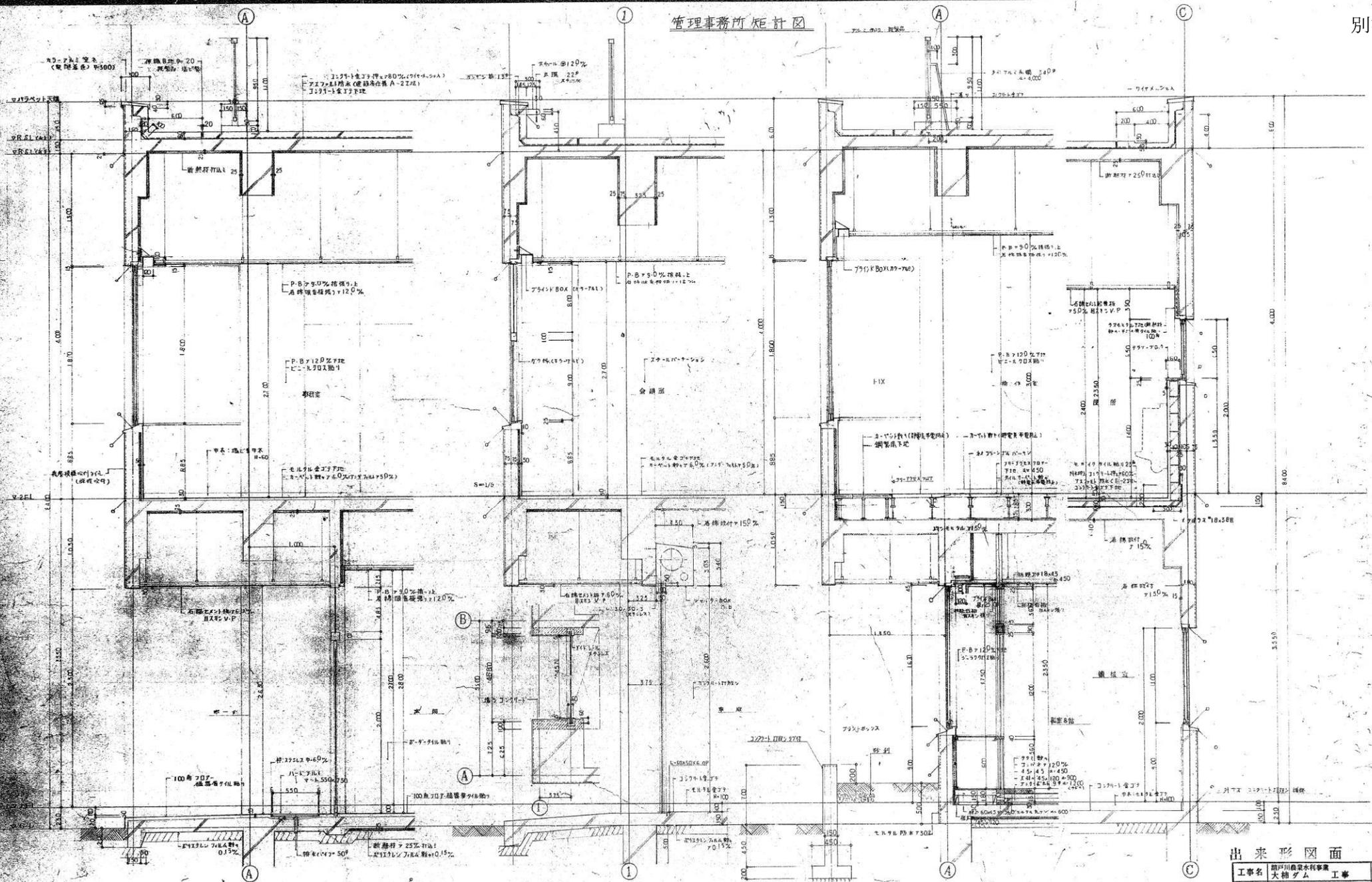
管理事務所 平面 立面 図



出来形図面

工事名	群馬県農業水利事業	大橋ダム	工事	図番
図名	管理事務所	平面 立面図		14-2
作成	工務課	工務課	設計	支隊
測量	年月			
設計	年月			
東北農政局 群馬県農業水利事業所				
年度	工種	分類	仕様	

管理事務所配図

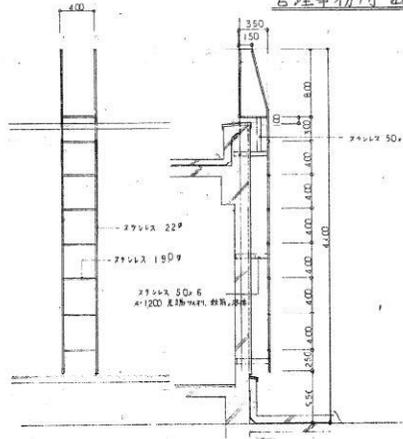
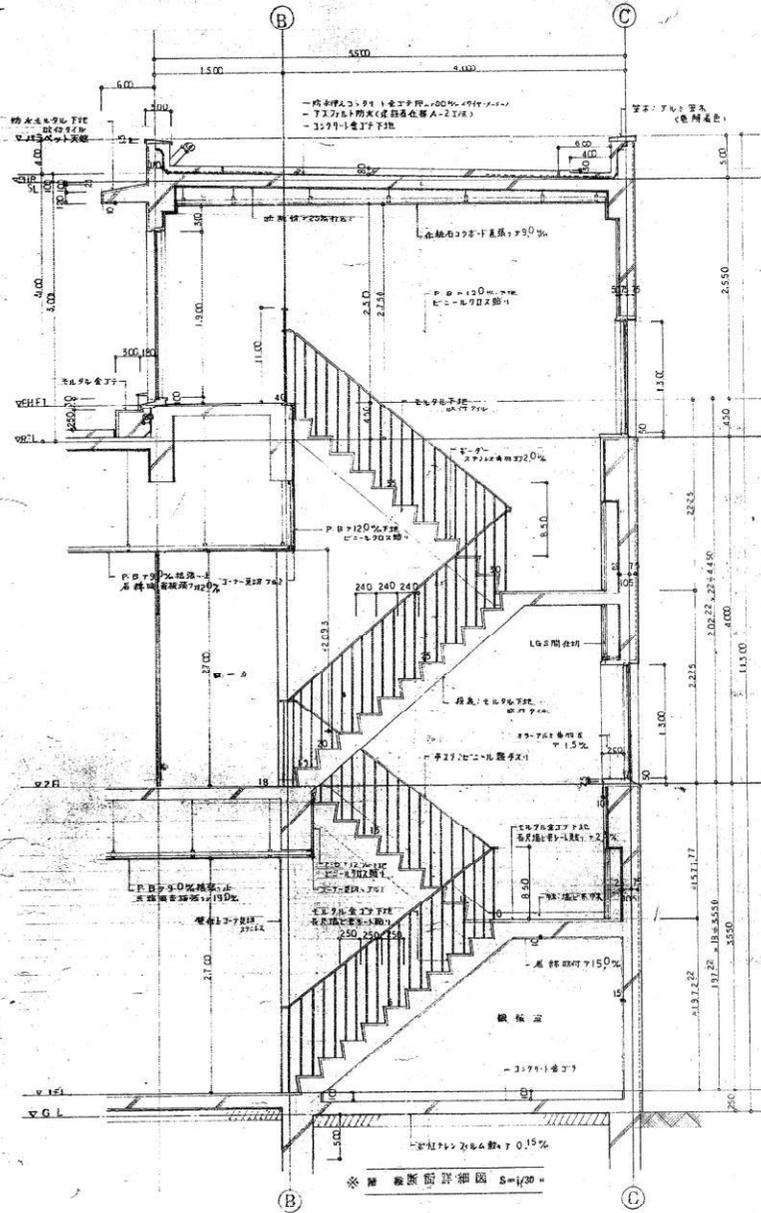


※ 配図 S=1/20

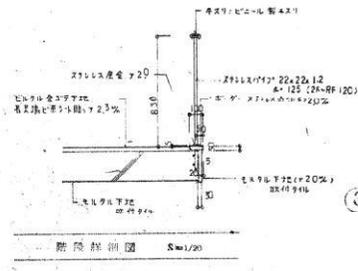
出来形図面

工事名	戸川農業水利事業	図番	
	大橋ダム	工事	
図名	管理事務所		44-5
	配図		75
作成	工務課	設計	技師
測量	年月		
設計	年月		
東北農政局 戸川農業水利事業所			
年度	工種	分類	種類

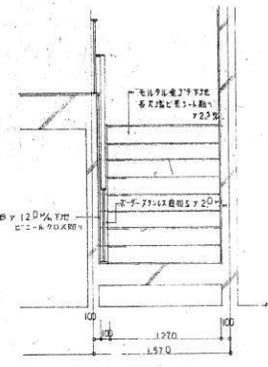
管理事務所断面図



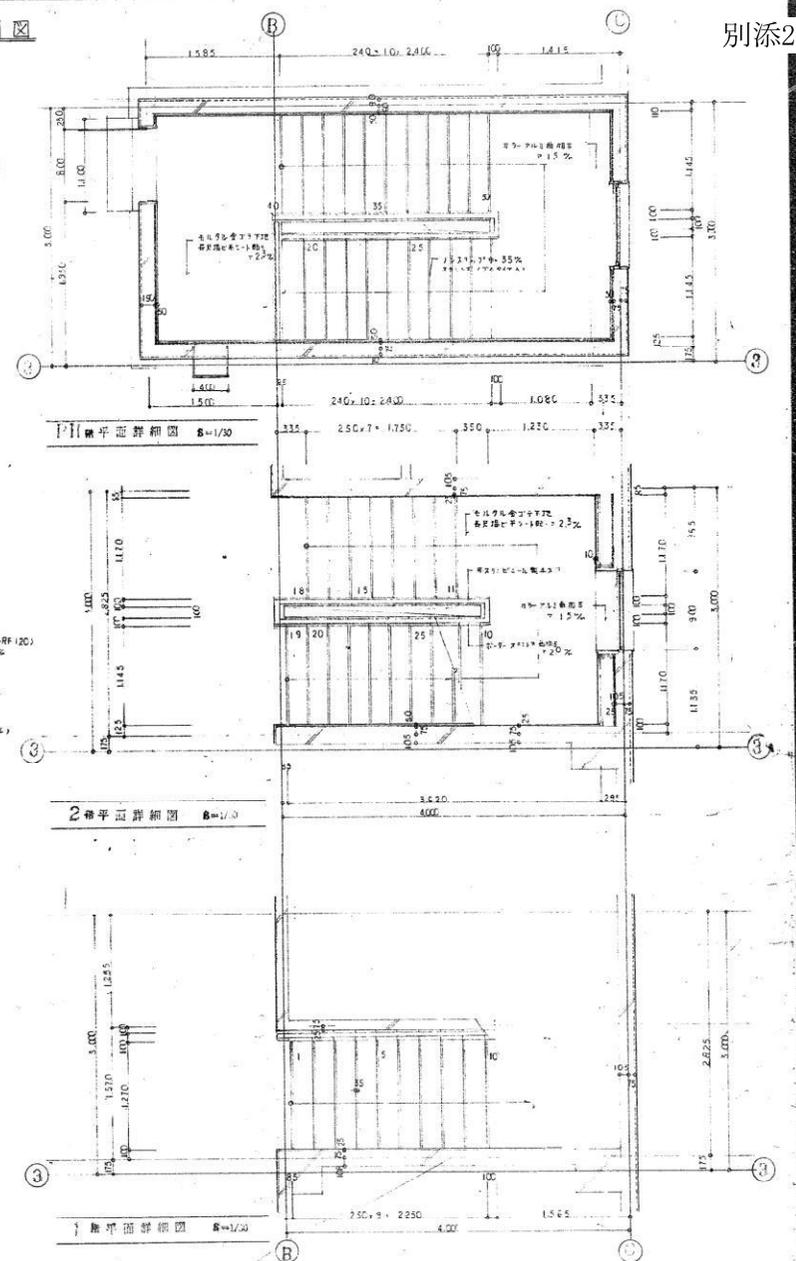
ガラス部詳細図 S=1/30



階間部詳細図 S=1/20



階段断面図 S=1/20



1階平面詳細図 S=1/30

2階平面詳細図 S=1/30

3階平面詳細図 S=1/30

出来形図面

工事名	群馬県農業水利事業 大橋ダム 工事			図番
国名	管理事務所	断面図	94-75	6
所長	工務課長	工務官	設計	監修
測量	年月			
設計	年月			
東北農政局群馬県農業水利事業所				
年度	工種	分期		

管理事務所基礎伏図

共通事項

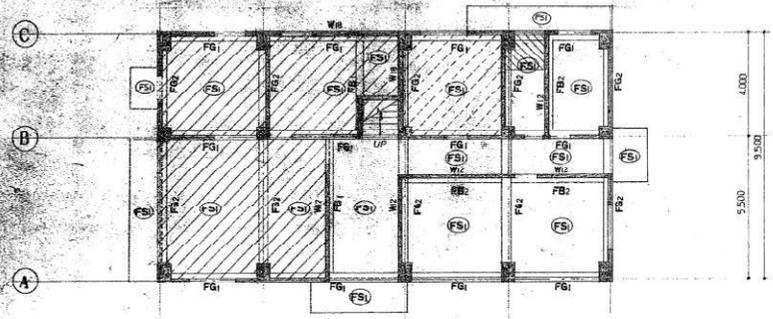
コンクリート F₁-210² (縦筋・筋太目27), F₂-150² (ラッパルコンクリート・ステーション)

鉄筋 SD35 (D19以下), SD30 (D19以下)

鉄筋表示 D10 @ 200, D13 @ 250, D16 @ 250, D19 @ 250, D22 @ 250

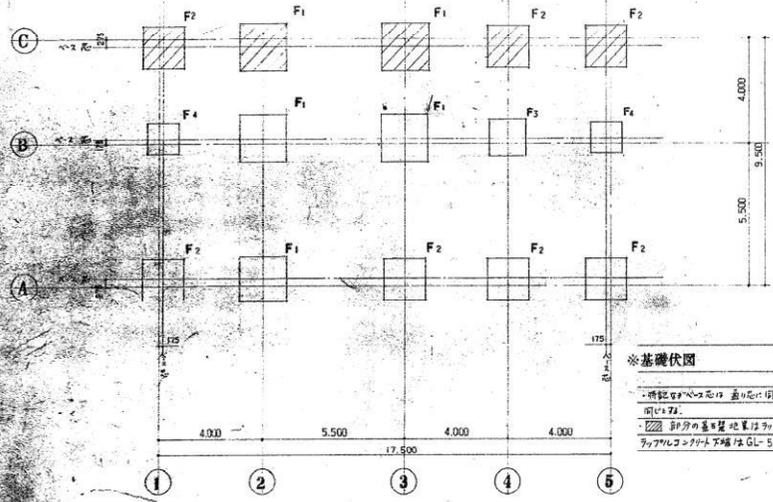
長期貯留貯水 (30³/m³)、支持地盤 (粘板)

建築標準設計図に表示されていない事項は、農林水産省管轄工事共通仕様書による。



1階梁床伏図 1/100

- < > 桁番号は 1F.L. からのスラブ天端計算番号。記入番号は D10 @ 30
- () 桁番号は 1F.L. からの桁天端計算番号。記入番号は 1/10 単位
- スラブ 上端天端と桁天端は別記コンクリート区分とする。
- 記入位置は D10 @ 200
- 部分スラブ天端 <- 80 > 部分コア天端 <- 110 >
- 部分スラブ天端 <- 100 >



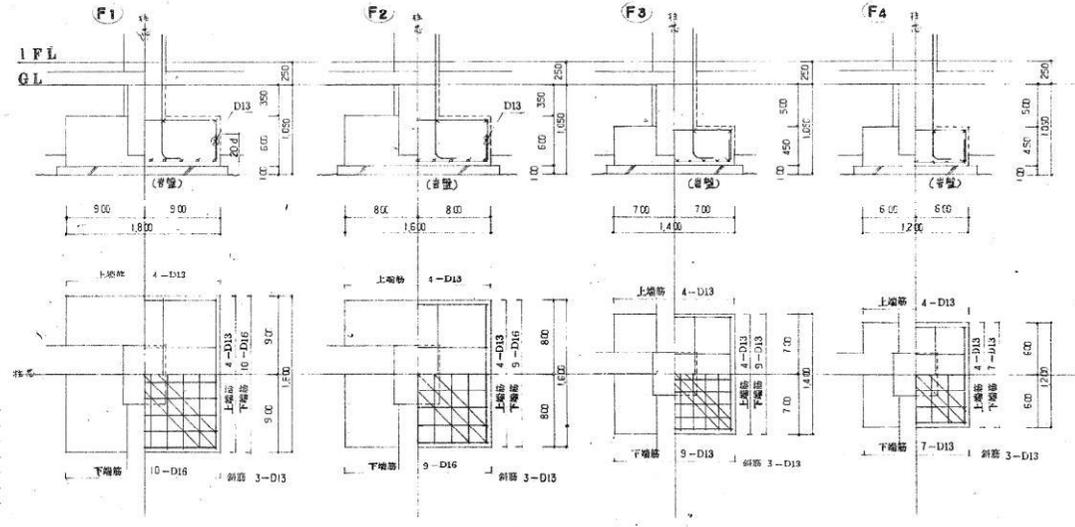
※基礎伏図 1/100

- 桁番号は D10 @ 200 同様に、柱筋は D10 @ 200 同様に示す。
- 部分の基礎埋地量はラッパルコンクリートとし、ラッパルコンクリート天端は GL - 5.500 とす。

基礎リスト 1/30

地盤 粘板 50 粘板 50

柱径 D10 @ 1000 以内に入る。



地中梁リスト 1/30

地盤 粘板 50 粘板 50

柱径 D10 @ 1000 以内に入る。

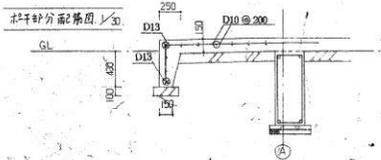
符号	FG1	FG2	FB1	FB2
位置	全断面	全断面	全断面	全断面
断面				
上端筋	4-D22	4-D22	3-D19	2-D19
下端筋	4-D22	4-D22	3-D19	2-D19
縦筋	2-D13	2-D13	2-D10	2-D10
間筋	D13 @ 250	D13 @ 250	D10 @ 200	D10 @ 200

上間スラブリスト

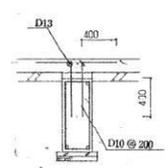
地盤 粘板 50 粘板 50

埋地部分には十分蓋圧の要。

符号	厚	位置	短辺方向	長辺方向	備考
FS1	150	上端筋	D10 @ 200-S	D10 @ 200-S	
		下端筋	D10 @ 200-S	D10 @ 200-S	



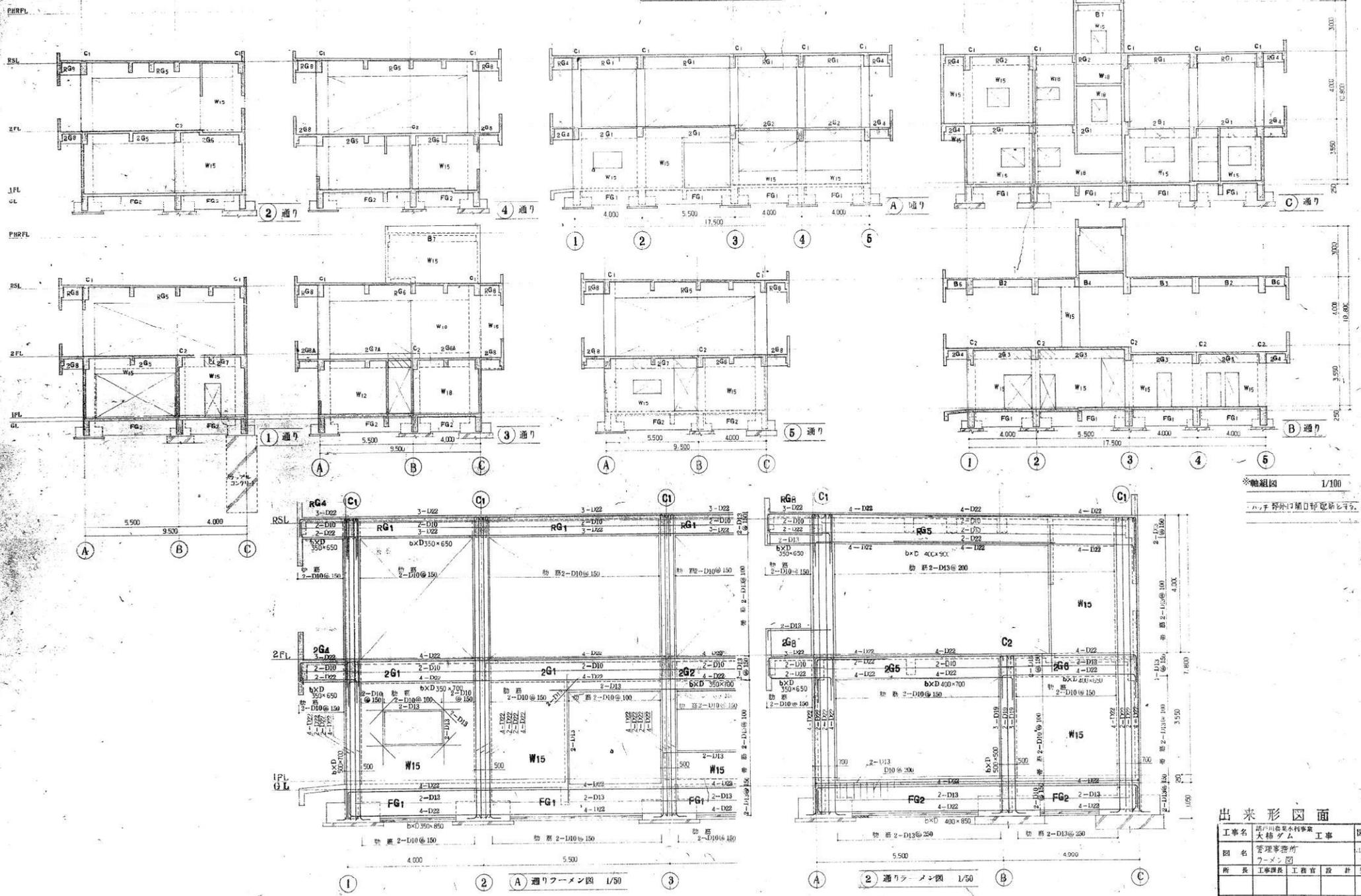
1階スラブと地中梁の取合 1/30



出来形図面

工事名	助川農業水利事業	工事	図番
図名	管理事務所	基礎伏図	46-4
所長	工務課長	設計	75
測量	年月		
設計	年月		
東北農政局 助川農業水利事業所			
年	月	日	

管理事務所 ラーメン図



※軸組図 1/100

ハッチ 鉄筋の開口部を意味する。

出来形図面

工事名	沼川農業水利事業	工事	図番
図名	管理事務所	ラーメン図	47-75-1
所長	工事課長	工務官	設計
副	監	年月	
設計	年月		
東北農政局沼川農業水利事業所			
年	工	分	日
度	程	時	時